

小出誠則編輯 每月壹
回發兌

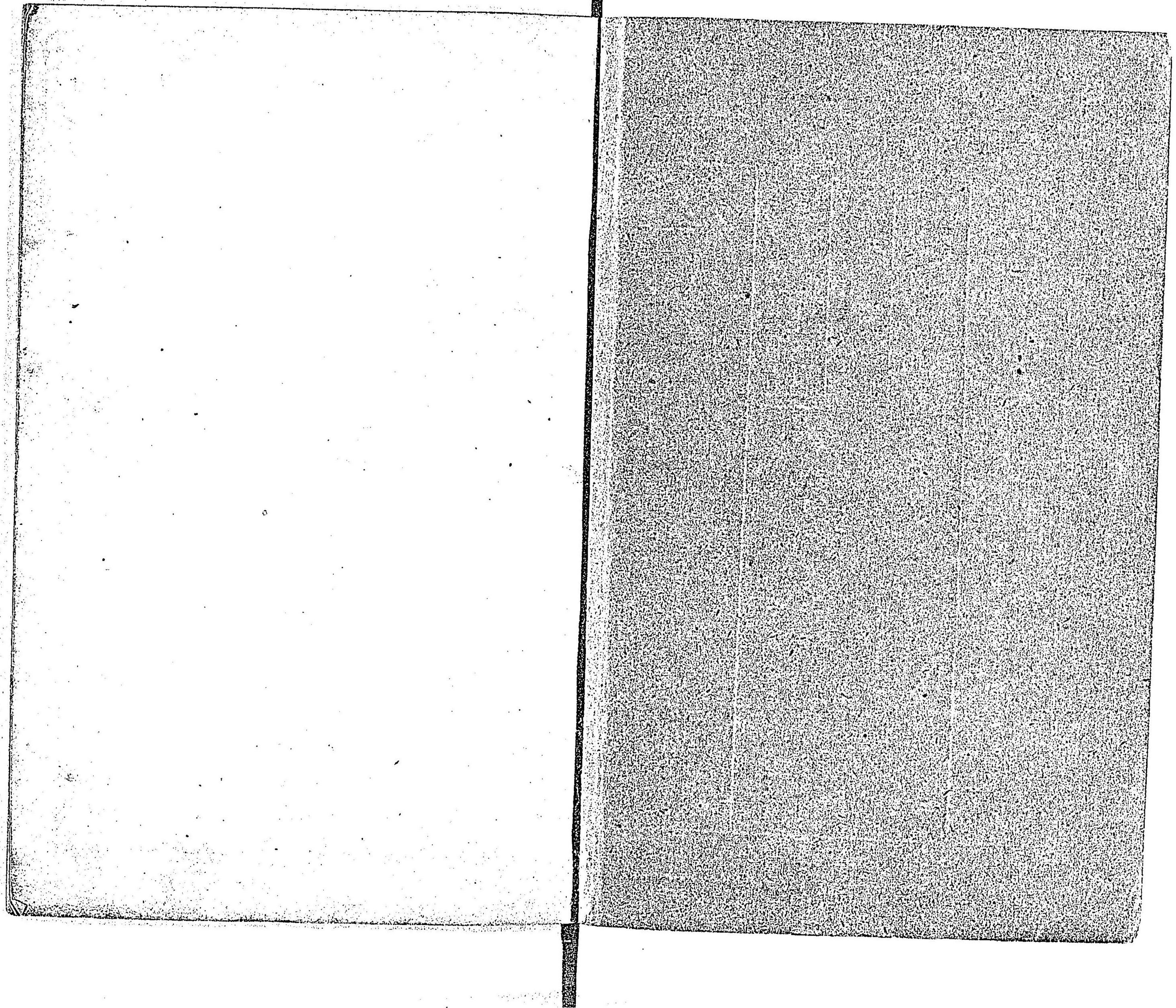
千葉 始審
輕罪
治安 裁判所

八日市場治安裁判所

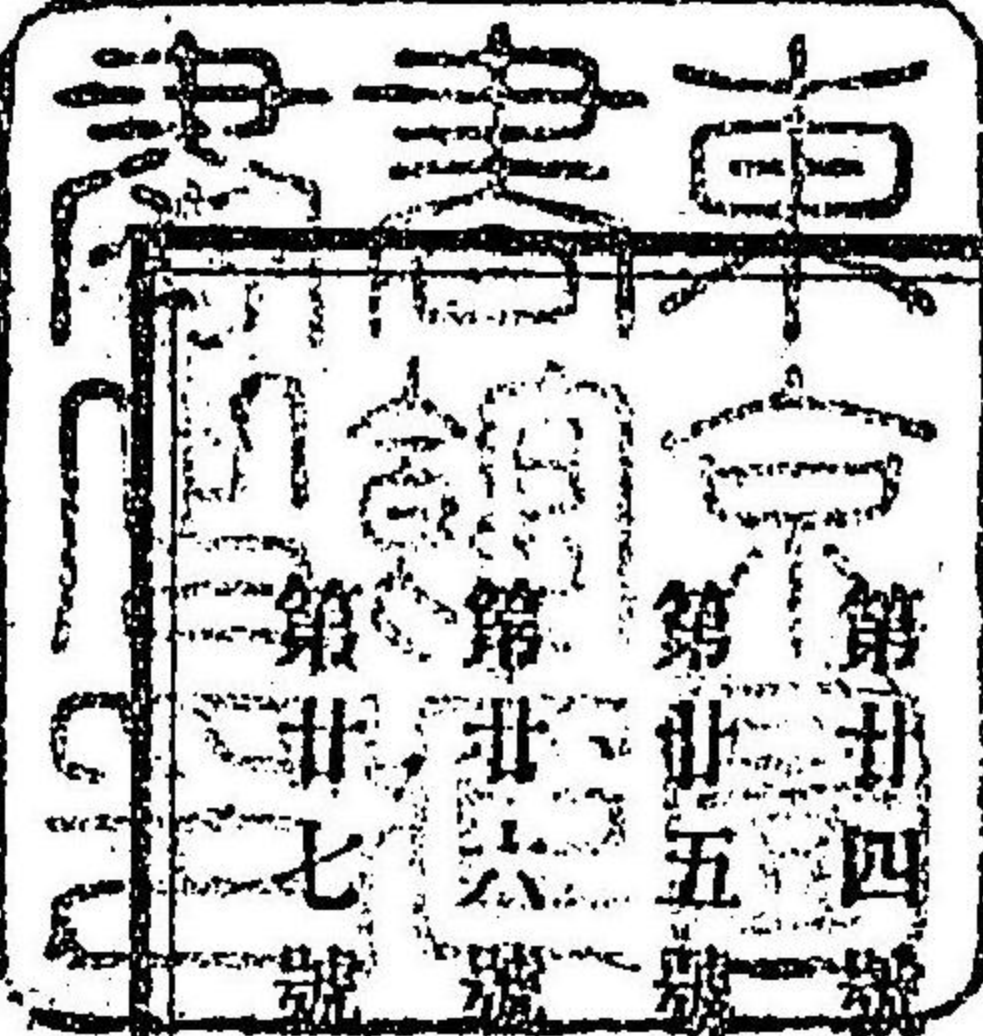
木更津 始審
輕罪
治安 裁判所

判決錄

明治十五年五月印行 二月分 第二編 民事



特47 C2
287 3113



02

千葉始審裁判所判決録

目録

- 第十八號 林地經界論ノ件
- 第十九號 貸金催促ノ件
- 第二十號 貸金催促ノ件
- 第二十一號 質取戻地引帳名義書換ノ件
- 第二十二號 買受地所立木契約履行ノ件
- 第二十三號 地所抵當貸金催促ノ件
- 第二十四號 官地拜借配當契約履行ノ件
- 第二十五號 貸金催促ノ件
- 第二十六號 預ク金取戻ノ件
- 第二十七號 質入地所受戻シノ件

- 第廿八號 畑地賣買契約履行ノ件
- 第廿九號 草野地賣買契約履行ノ件
- 第三十號 質入宅地受戻シ請求ノ件
- 第卅一號 預メ田地取戻シノ件
- 第卅二號 貸金催促ノ件
- 第卅三號 甲畑屋敷山林地不正ノ賣買取消シ請求ノ件
- 第卅四號 預メ金取戻シ請求ノ件
- 第卅五號 貸金催促ノ件
- 第卅六號 滅家再興故障差除キノ件
- 第卅七號 貸米代金催促ノ件
- 第卅八號 損害要償請求ノ件
- 第卅九號 家督相續爭ヒノ件

- 第四十號 貸金催促ノ件
 - 第四十一號 用水路開設要求ノ件
 - 第四十二號 年賦貸金催促ノ件
 - 第四十三號 地所買代金取戻契約履行ノ件
 - 第四十四號 年賦貸金催促ノ件
 - 第四十五號 貸金催促ノ件
- 千葉始審裁判所控訴判決録第二編

目録

- 第一號 質入田地受戻シノ件
- 千葉治安裁判所判決録
- 目録
- 第三號 買受地所引渡履行ノ件

- 第四號 質地受戻ノ件
- 第五號 貸金催促ノ件
- 第六號 貸金催促ノ件
- 第七號 貸家取戻ノ件

八日市場治安裁判所判決録

目録

- 第十號 質流地返地約定履行ノ件
- 第十一號 地所讓受約定履行ノ件
- 第十二號 預メ地曳網取戻シノ件
- 第十三號 貸金催促ノ件
- 第十四號 小作米催促ノ件
- 第十五號 端物買附額金取戻シノ件

木更津始審裁判所判決録

目録

- 第一號 質地代金催促ノ件
- 第二號 貸金催促ノ件
- 第三號 小作金催促ノ件
- 第四號 質地受戻及地券書換要求ノ件
- 第五號 雇給金取戻シノ件
- 第六號 質地受戻シノ件
- 第七號 貸金催促ノ件
- 第八號 貸金催促ノ件
- 第九號 貸金催促ノ件
- 第十號 貸金催促ノ件

- 第十一號 千葉代金滯催促ノ件
- 第十二號 貸金催促ノ件
- 第十三號 貸金催促ノ件
- 第十四號 貸金催促ノ件
- 第十五號 貸金催促ノ件
- 第十六號 貸金催促ノ件
- 第十七號 堰修繕費割賦金請求ノ件

千葉始審裁判所判文

第十八號

林地經界論ノ件 明治十五年二月一日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣下総國東葛飾郡

千駄堀村二十六番地平民安

森源之進後見人實父

安 森 忠 藏

被告同村三十五番地平民吉

野新兵衛代人長男

吉 野 幸 助

林地經界爭論ノ詞訟裁決スル左ノ通

原告於實測圖面第一番杭ヨリ順次第十五番杭ニ至ルノ屈曲線ヲ以テ双方ノ經界ナリト申立ルナレトモ舊地主飯沼忠七ハ被告カ指示ス番杭ノ經界ヲ以テ每テ双方ヘ該地賣渡シタルノ分界ナリト証シ且又村吏並ニ原告等ノ地主惣代人於テ去ル明治九年地租改正ニ際シ第五十一番杭ヨリ西ノ方三間隔タリタル處ヲ初杭ト定メ第十七番杭ヨリ西ノ方四尺二寸隔タリタル處ヲ終杭ト定メ其初杭ヨリ終杭ヘ一直線ニ見通シ之ヲ双方之經界ト決定シ取調タル處双方共何等ノ異議ナカリキトノ申立テアリ因テ視レハ此般被告於テ第五十一番杭ヨリ第十七番杭ヘ見通シタル一直線ヲ經界ナリト云ハ猶原告ニ一步ヲ讓レルモノ、如シ然ルヲ原告ハ何ノ因ル處アツテ第一番杭ヨリ順次第十五番杭マテノ屈曲線ヲ經界ナリト云乎其理由ヲ認ムル能ハス原告於テ甲第一號ノ舊繪圖面ヲ以テ其証ナリ、申立ルナレトモ實地ニ其証據

圖面ヲ比照シ假ニ原告申立ノ番杭ヲ經界ト爲ストキハ被告ニ若干ノ減歩ヲ生ス其減歩ハ被告カ往昔隣地某ノ爲メニ侵掠ヲ受ケタルナリト原告申立ルモ其証據無之況乎甲第一號之圖面ハ舊地主ト原告ノ間ニ効アル証據トナルヘキモ被告ヘ對シ特立ノ証據爲ラサルニ於テフヤ夫レ如斯ナル理由ニ付原告申分不相立被告申分通實測圖面第五十一番杭ヨリ順次第六十三番杭其ヨリ道敷ヲ隔テ第十七番杭ニ至ル一直線ヲ以テ原被告双方之經界ト可相心得事但訴訟入費ハ悉皆原告人ヨリ償却ス可シ第十九號

貸金催促ノ件 明治十五年二月二日言渡
裁判言渡書

原告千葉縣上総國夷隅郡船
子村二十三番地平民

宮崎清吉

被告同縣同國同郡須ヶ谷村
五十一番地平民高師龜吉後
見人高師冲右衛門代言人同
縣下総國千葉郡千葉町二百
廿番地寄留平民

麻生致一

貸金催促ノ訴訟審理判決スルコト如左

第一 被告ニ於テ原告カ高師冲藏ヨリ差入タル明治十四年六月十二
日及ヒ同月十五日附ノ証書ヲ掲ケ本訴ニ及ヒタルモ被告ハ右冲藏

リ家督相續ヲ受ケタルハ明治十四年六月二日ナレハ該証ハ即チ右冲
藏カ隠居以後ニ差入レタルモノナリ然レハ原告ハ之ヲ右冲藏ニ係リ
起訴致スハ格別被告ヘ掛リ訴ヲ爲スハ頗ル不筋ニ付本訴請求ニハ應
ジ難キ旨申立ルト雖モ原告ハ右冲藏ノ隠居年月ハ明治十四年七月三
日ナルヲ以テ其相續人タル被告ヘ掛リ詞訟及ヒタル旨申立ルニ付即
チ該村戸長役場ニ相達シ其役場ニ具備セル戸籍帳及ヒ右冲藏カ家督
相續ノ儀ヲ右役場ヘ届出タル等ノ書面ヲ査閱スル處右冲藏ノ家督相
續届書面ニハ明治十四年六月二日ト記載ハ之レアレモ戸籍帳及ヒ戸
籍加除簿等ニハ明治十四年七月三日隠居タルコトヲ記載セリ尙戸長代
理筆生酒井市左衛門ノ上申スル處ニ據レハ明治十四年七月三日右届
書ニ連署致セル田口茂右衛門岩堀春次等明治十四年六月二日附ノ届
書ヲ戸長役場ニ持參致スニ付追テ訂正ヲ加フヘキ筈ニテ受理シ置ケ

リトシ証言アリ由之觀之ハ右届書面ニハ明治十四年六月二日ト之レ
アレト實際ハ明治十四年七月三日ヲ以テ右沖藏カ隠居ノ一チ戸長役
場ニ届出タルトヤ明ナリ因テ右沖藏ハ明治十四年七月三日ヲ以テ隠
居致セシモノト判定ス

第二條 前條右沖藏ノ隠居年月ハ明治十四年七月三日ト判定致セシ
上ハ右 藏カ負債ノ年月明治十四年六月十二日及ヒ明治十四年六月
十五日ハ俱ニ右沖藏カ戸主中ノ負債ニ係ルヲ以テ其相續人タル當被
告ハ之ヲ負擔償却致スヘキハ當然ナルニ付原告請求ノ元利金百八圓
九十錢ハ速カニ償却致スヘキ事

但訴訟入費ハ成規ノ通被告ヨリ原告ヘ償却スヘシ
第二十號

貸金催促ノ件 明治十五年二月三日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣上総國長柄郡大

芝村三十番地平民

麻生吉久

被告同郡岩沼村十六番地平

民

高橋勘之丈

貸金催促ノ詞訟審理ヲ遂ク裁決スルハ左ノ如シ
被告高橋勘之丈ニ於テ本訴金員ハ甲第一號証ノ通借受セシニハ相違
無キモ自分儀ハ儘ニ金五圓ヲ分借セシノミナレハ之ヲ返償シタル上
濟方致シ度然ラサレハ共ニ負債主タル佐瀬四郎兵衛佐瀬伊右衛門小
川源之輔等ニ面會ヲ遂ケ而シテ後返濟ノ義務ヲ盡シ度旨申立ツレ

抑モ甲第一號証ナルモノハ一紙連名ノ証書ニシテ別ニ合借ノ明文无
之ノミナラズ右佐瀬四郎兵衛外二名ノ者ハ失踪致シ目今行衛相分ラ
サレハ俄カニ面會ヲ遂ケントスルモ得可カラサルハ勿論其甲第二號
証ヲ査閱スルニ該明文中期日ニ至リ候ハ不在ノ者有之候共居合之
者共ニテ急度返濟仕貴殿へ聊御迷惑相懸ケ中間敷云々ト記載有之上
ハ勘之丈於テ其四郎兵衛外二名ノモノカ不在ナルヲ口實ト爲シ之カ
返濟ヲ抗拒スルノ權無之モノトス因テ被告勘之丈於テハ原告ノ請求
ニ應シ本訴元利金額ヲ速ニ返償ス可キ事
但訴訟入費ハ規則ニ照シ被告勘之丈ニ於テ擔當ス可シ
第二十一號

質地取戻地引帳名義書換ノ件 明治十五年二
月七日言渡
裁判言渡書

原告千葉縣下総國印旛郡吉

高村四十九番地平民

須藤 太左衛門

被告同國同郡同村五十一番

地平民

須藤 文左衛門

名前變換手續并地所取戻シ請求ノ訴訟審理如左判決ス
被告ニ於テ本訴字清水舊下田六畝九步改正田八畝七步ノ地ハ度應三
年三月中原告方ニ代金四田五十匁ヲ以テ質地ニ相渡シ置タル地所ニ
シテ明治八年一月十八日該地受戻シ代金悉皆相渡濟ナル旨始末申立
ルト雖モ該地ハ明治十三年第百五十二號ヲ以テ被告カ地券書換淹滯
ノ詞訟ヲナシタル際當時千葉支廳ニ於テ被告ハ地券書換ヲ要ムルノ

權利ヲ拋棄セシモノニ付云々トノ裁判ヲ與ヘラレ其裁判已ニ確定セ
リ然ル上ハ該地所有者ハ即チ當原告ナルヲ以テ原告カ該地取戻シ地
引帳名前變換ヲ要ムルニ被告ハ之ヲ拒ムヘキ權利ナキモノトス因テ
被告ハ原告請求ノ通質地代金四田五十匁ヲ受取リ該地ヲ原告ヘ引渡
シ且地引帳名義書換ノ手續ヲ爲スヘキ事
但訴訟入費ハ成規ノ通被告ノ負擔タルヘキ事
第二十二號

買受地所立木契約履行ノ件 明治十五年二月八日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣上總國山邊郡六
網宿三百七十番地平民土屋
五郎吉代官人下總國千葉郡

千葉町六十九番地寄留平民

杉山安藏

被告同縣同國市原郡草苅村
十四番地當時東京府武藏國
南豐嶋郡原宿村七十三番地
寄留平民中村丙午代官人上總
國市原郡草苅村百十四番地
平民

中村三藏

被告東京府武藏國南豐嶋郡
千駄ヶ谷村百一番地平民

逸見祐之助

被告千葉縣上総國山邊郡土
氣町六十一番地平民花澤彦
左衛門外二名代兼同町六十
六番地平民

小川 六 左 衛 門

連及同縣上総國市原郡今富

村八十三番地平民

小 出 友 右 衛 門

買受地所立本引渡履行ノ訴訟審理如左判決ス

第一條 被告中村丙午ニ於テハ被告逸見祐之助ノ官地拂下ケ名義ヲ
同人ヨリ讓受ケ而シテ又甲第一號証ノ如ク之ヲ原告ヘ賣渡スノ契約
ナシタル處右拂下指令縣廳ヨリ下付セララル、ニ當リ原告ハ甲第一號

証中第三條名義讓渡シ代金八百圓ノ殘金四百圓ト縣廳ヘ上納スヘキ
金百二十四圓五錢三厘及ヒ同証第七條丙午カ縣廳ヘ出頭シタル入費
金等ノ出金ニ差支タルヲ以テ原告ヘ協議ノ上之ヲ取消シ前書原告ヨ
リ受取ルヘキ金員ニ差支アルヲ以テ最初有祐之助ト取結ヒタル契約
ヲモ亦隨テ解除相成タリ依テ原告ノ請求ニ應シ難キ旨申立ツルト雖
モ原告ニ對スル甲第一號証ノ取消エタリトノ証左無之現ニ甲第一號
証ハ原告ノ手ニ存シ原告ハ否ラスト申立ツル上ハ右丙午カ甲第一號
証ハ取消エタリトノ申分ハ不相立然リ而シテ右丙午カ此甲第一號証
ノ契約アルニモ拘ラス最初有祐之助ト取結ヒ置タル契約ヲモ解除致
セシハ原告ニ對シ不都合ノ所爲ナリトス

第二條 前條ノ理由ナルヲ以テ被告逸見祐之助ハ中村丙午ト取結ヒ
タル契約ヲ解除シ更ニ丙第一二號証ノ如ク土地立本共之ヲ連及小出

友右衛門ナル者ハ賣渡シ右友右衛門ハ又被告小川六左衛門花澤彦左衛門白石勘兵衛吹野良輔等ニ乙第二號証ノ如ク該立木ヲ賣渡シタリ左スレハ連及小出友右衛門ハ勿論被告小川六左衛門外三名ノ者於テ右土地并ニ立木ヲ買取リタル手續ニ至テハ一ノ瑕瑾アルコトナシ因テ原告ハ右中村丙午ニ對シ損害ノ償ヲ求ムルハ格別甲第一號証ノ契約ヲ履行シ度トノ請求ハ遂ケ能ハサル儀ト心得ヘシ

但訴訟ノ費ハ悉皆被告中村丙午ノ負擔タルヘキ事

第二十三號

地所抵當貸金催促ノ件 明治十五年二月八日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣上総國武射郡島
喰下村三十六番地眞福寺住

職

鈴木良察

被告同村二十九番地平民押
尾元吉代人同村廿八番地平民

押尾權兵衛

地所抵當貸金催促ノ訴訟審理ヲ遂ケ裁決スルコト左ノ如シ

被告ニ於テ本訴金員ハ借用セシニ相違無キヲ以テ明治十四年十二月中之ヲ悉皆返金シタレハ二重ノ濟方ハ致シ難キ旨申立ツレト原告ニ於テハ否ラスト申立ツルノミナラス果シテ返濟シタル証ノ視ル可キモノ無之上ハ已ニ返濟シタルトノ被告申分ハ相立難シ因テ被告ハ原告請求ノ通甲第一號証抵當ノ地所公賣シ本訴元利金額ヲ返償ス可キ

事

但訴訟入費ハ規則ニ照シ被告ニ於テ擔當ス可シ
第二十四號

官地拜借配當契約履行ノ件 明治十五年二月十日言渡
裁判言渡書

原告千葉縣下總國麩匝郡米倉村二番地平民伊藤喜右衛門外八十一名惣代人同村三十五番地平民伊藤清右衛門相續人

伊藤清助

同村四十五番地平民

鎌形源兵衛

同村六十九番地平民

伊藤貞助

被告同村二十三番地平民

伊藤八之丞

同村百十六番地平民伊藤六

兵衛代兼同村百九番地平民

小川小左衛門

同村六十番地平民

伊藤伊八

拜借地配當約定履行ノ訴訟審理ノ上如左判決ス

被告ニ於テ原告ガ拜借地約定履行ヲ請求スル舊字長曾外ニテ所反別

十六町步ノ地ハ明治十三年八月中甲第二號 被告乙 第一號証ノ如ク村方公益
 ノ爲メ官地三十二町二反六畝十二步ヲ千葉縣廳へ拜借ノ儀出願シ甲
 第一號証第三條ニ有之如ク前書十六町步ノ地ハ開墾望ミノ者へ相當
 ノ税金ハ勿論都テ右ニ關スル諸費爲差出一同協議ノ上配賦可爲受事
 ト取極メ明治十四年四月中官吏派出ノ上該地引渡サレタリ依テ戶長
 佐久間權兵衛ヨリ村民一同ヲ招集シ開墾志願ノ有無ヲ尋問シ同人并
 筆生石井五左衛門事務掛惣代鎌形忠兵衛等ノ指揮ヲ以テ乙第四號証
 ノ如ク開墾望ミノ者へ該地ノ内十一町七反一畝十八步ノ地ヲ割賦致
 シタルモノニシテ決シテ被告等カ該約定ニ背戻シ私擅ノ取計ヒナシ
 タルモノニ無之間原告請求ニ應シ已ニ割賦シタル地ヲ今更割直ス
 ハ難相成旨申立ツルト雖ヒ原告ハ右開墾志願有無ヲ尋問サレシト無
 之ト申立又戶長佐久間權兵衛ノ申立モ當時村民惣代タル被告等へ一

村協議ヲ以テ該地ヲ公平ニ割賦致スヘキ旨ヲ申達セシニ被告等不公
 平ノ割賦ヲ爲シタルニ付説諭加フト雖ヒ行届カサレシト由之觀之レ
 ハ被告カ該地ノ割賦ヲ致セシハ一村人民ノ許諾ニ出テタルモノトハ
 認メ難シ然リ而シテ甲第一二號証ノ文旨ニ據ルモ該地ハ固ヨリ一村
 ノ公益ヲ計リ開墾目的ヲ以テ借地ノ許可ヲ得タルモノナレハ開墾望
 ミノ者へハ宜シク公平ノ方法ヲ以テ之レカ分賦ヲ爲スヘキハ當然ナ
 ルニ今ヤ原告カ該約定履行ヲ要ムルニ方ツテモ被告ハ尙其非ヲ遂ケ
 ソトノ申分ハ不相立因之該地ハ原告請求ノ通開墾望ミノ者へ更ニ平
 等ノ割賦ヲナシ分借致スヘキ筋ト相心得ヘキ事
 但訴訟入費ハ成規ニ照シ被告ノ負擔タルヘク事

第二十五號

貸金催促ノ件 明治十五年二月十四日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣上総國夷隅郡新
田村百十二番地平民藤枝與
四郎代兼同村八十六番地平
民

鈴木吉左衛門

被告同村百三十一番地平民

淺野五郎兵衛外二名代兼同

村九十三番地平民

鶴岡才兵衛

被告同村九十番地平民鶴岡

小右衛門外二名代兼同村百

六十五番地平民

青柳源治左衛門

貸金催促ノ詞訟審理ヲ遂ケ裁判スルノ如シ
被告於テ原告提供スル甲號証被告名下ノ印影ハ何レモ實印ニ相違ナ
ケレモ金員借用ノ覺ヘナク顧フニ先年原告ハ他事件ニテ約定証ヲ差
入置タルコトアレハ原告カ其証書ヲ變換シ借用証ニ爲シタルモノト想
像スルヲ以テ濟方難致旨申立原告ハ否ラサル旨抗辨スルヲ以テ該証
書ヲ閱スルニ毫モ變換シタル形跡ナク純然タル借用証ナレハ被告於
テ右甲號証ニ對シ借用セサルトシ証憑無之上ハ被告申分不相立ニ付
原告請求スル元利金二百七圓五十錢ハ速ニ償却スヘシ且ツ訴訟入費
モ規則ニ照シ被告ヨリ償フヘキ事

第二十六號

預ケ金取戻ノ件 明治十五年二月十五日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣下総國東葛飾郡
上貝塚村五十七番地平民中
村梅次郎代人同國千葉郡千
葉町三百五十四番地土族

池田貞

被告同縣同國東葛飾郡市野
谷村廿二番地平民深谷兵右
衛門姉深谷フサ代人同國千
葉郡千葉町二百廿八番地土
族

伊原演

預ケ金取戻之詞訟審理ヲ遂ケ裁判スルノ如シ
被告於テ本訴預リ金ノ内へ明治十五年二月八日金七圓差入レ同十四
日迄延期ヲ乞フ際其當日ニ至リ殘金三十三圓ノ内へ幾許カ入金アラ
ハ五圓ヲ切捨勘辨シ其餘ハ新証書ニ改ムル口約定ナリシヲ以テ右約
旨ニ基キ濟方致度旨申立ツレト原告於テハ如斯契約ヲ爲シタルノ無
之旨抗辨スル上ハ被告申分信用シ難シ依テ原告請求スル金額ノ内入
金シタル分ヲ差引殘金三十三圓ハ速ニ返却スヘシ且訴訟入費モ規則
ニ照シ被告於テ負擔スヘキ事
第二十七號

質入地所受戻シノ件 明治十五年二月十六日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣下総國印旛郡龍
服寺村三番地平民上總國山
邊郡東金町六十二番地寄留
加藤治郎次代人同國武射郡
椎崎村六十六番地平民

府 川 秀 達

被告千葉縣下総國印旛郡龍

服寺村十番地平民五十嵐慎

代人同郡中根村十七番地平

民

加 藤 豊 平

質地受戻ノ訴訟原被兩造カ訴答ノ要領左ノ如シ

原告請求ノ要旨

本訴六反八畝六歩ノ地ハ明治二年四月中甲第二號証ノ通三ヶ年季
ノ質地ニ差入レ期明ケ后元金返済スレハ何時ニテモ受戻サル、答
ノ約ナリシヲ地券發行ノ際質地ハ総テ質取主へ地券名受ケ致サセ
置可キ旨村民一同ノ協議ニ從ヒ該地ノ地券モ假リニ被告へ名受ケ
ヲ爲サシメタルヲ以テ爾來被告カ該地ノ受戻シテ差拒ムノ口實ト
ナリ期明ケ后屢催促スルモ肯ンセサルノミナラス其年季明ケノ節
双方協議ノ上流地ニ爲セシ如ク喋々スレト如斯協議ニ與リタルト
會テ無之就中該地ハ甲第二號証ノ如キ質地ナルトハ村簿上明瞭記
載有之ヲ以テ判然タルハ其實際ノ契約ニ基キ速ニ受戻シ度トノ事
被告答辨ノ要旨

原告カ受戻ヲ請求スル六反八畝六歩ノ地ハ明治二年四月中三ヶ年

季ノ質地ニ取シモ其期明ケノ節双方協議ノ上流地ト爲シ當時被告ノ所有地ニ確定シタルニ付地券ヲモ申受ケタル次第ナレハ今更返地ス可キ筋無之ハ勿論該地ハ明治十四年十二月中被告ノ都合ニ因テ中根村岩井伊右衛門方へ賣却シタルヲ以テ原告ノ請求ニハ應シ難シトノ事

仍テ左ノ如ク判決ス

一原告ニ於テ論地ハ三ヶ年季ノ質地ニシテ期明ケ后何時ニテモ受戻サル、約定ナリトノ申立ナレハ被告ニ於テハ最初三ヶ年季ノ契約ニテ質地ニ取タルニハ相違ナシト雖モ其季明ケ后受戻サス可クトノ契約ハ爲サ、ル旨辨解セルノミナラス之カ証憑ノ觀ルヘキモノ無之ニ依リ之ヲ何時ニテモ受戻サル、等ノ約定ナリトノ原告申分ハ相立ナ難シ

一原告ニ於テ論地ハ未ダ質地ニシテ流地セシモノニ無之トノ申立ナレモ目今之ヲ質地ト認ム可キ證據無之利明治二年ヨリ三ヶ年季ノ質地ナルコトハ原被告ノ口供相符合シ而シ其年季明ケ后ニ至リ現ニ被告カ地券申受タルヲ視レハ被告申立ノ通右年季明ケノ節流地トナリ已ニ被告ノ所有地ニ確定シタルモノト看做サ、ルヲ得ス况ンヤ該地ノ地券ハ假リニ被告カ名受ケシタルモノト認知ス可キ証左無之ニ於テヲヤ

一原告ニ於テ論地ハ甲第二號証ノ如ク質地ナルコトハ村簿上明瞭登記シ有之旨申立ツルヲ以テ之ヲ該村戸長ニ尋問及ヒタル處村簿上該地ヲ質地ト記載セシ廢更ニ無之旨ヲ証明セル上ハ該原告ノ申立ハ採用シ難シ

一前顯ノ理由ナルヲ以テ原告ハ被告へ對シ該地受戻シ度トノ請求ハ

相立タサル事

但訴訟入費ハ規則ニ照ラシ原告ニ於テ擔當ス可シ
第三十八號

畑地賣買契約履行ノ件 明治十五年三月十六日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣下総國東葛飾郡

高塚新田九十三番地平民

石橋平次郎

被告同村百五番地平民柴山

豊吉代人同郡中澤村百九番

地平民

三橋八郎左衛門

畑地買請約定履行ノ訴訟審理如左判決ス

被告ニ於テ原告カ提供スル甲第一號証ハ差入シ覺無之甲第一號証原告カ金四十田相渡シアリト云其金員ハ借用致シタルモノニシテ該証ハ原告ニ於テ之ヲ認メ借用証書ノ体ニ讀聞カセラレタルニ依リ真正ノ借用証書ト思量シ之レニ押印致シタリ其原告カ借用証ナリト言ヒタリシハ該証被告ノ肩書ニ借用人ト記載有之ヲ以テモ其確証ナリト申立ツルト雖モ果シテ該証ハ原告カ詐偽ヲ用ヘ之ヲ取り得タリトノ証左無之原告ハ當時被告カ証人同道ノ上該証之ヲ受取レリト申立ツル上ハ該証ハ被告カ自認シテ之ヲ差入タルモノト見做サハルヲ得ス左スレハ假令該証被告ノ肩書ニ借用人ト之レアレハトテ本文畑地賣買ノ契約ヲ無効ニ歸セシムルヲ得ス因テ右借用ノ二字ハ賣渡シノ誤寫ナリト解釋ス

右之理由ナルニ依リ被告ハ甲第一號証契約ノ如ク該地賣買代金二百圓ノ内已ニ原告ヨリ借用致セシ金二百圓ト手付金トシテ受取リタル金四十圓ト右借用金ノ利子金十七圓五十錢トテ差引殘金四十二圓五十錢ヲ原告ヨリ受取リタル上ハ該地ハ原告ヘ引渡シ目地券書換ノ手續ヲモ致スヘキ儀ト相心得ヘシ

但シ訴訟入費ハ成規ニ照ラシ被告ノ負擔タルヘキ事

第二十九號

草野地賣買契約履行ノ件 明治十五年二月十七日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣下総國印旛郡文
違村一番地平民
綿貫右馬之助

被告同郡榎戸新田村四十三
番地平民當時懲役人

三 須 七 之 助

地所賣請約定履行ノ訴訟審理如左判決ス

第一條 被告ニ於テ本訴ニケ所ノ地ハ素ト原告ノ所有地ナリシカ宗島新五郎ヨリ被告カ買受ケタルモノニシテ又之ヲ甲第一號及ヒ甲第三號証ノ通原告ヘ賣渡ス筈ノ約定ヲナシ手付又ハ内金トシテ金九十圓受取リタルニ相違無之ナレト原告ハ期日満金調達ニ差支期日過キ去リタルノ後内金ヲ入金シ尙延期ヲ乞フニヨリ明治十三年五月廿五日斷然之ヲ中斷リタリ依テ右賣渡シ約定ハ當日ヲ以テ消滅致シタルモノナル旨申立ツルト雖モ原告ハ否ヲサル旨申立且甲第五號証六月十二日附ヲ以テ被告カ原告ヘ差送リタル書簡ヲ閱スルニ前御約定ノ

地所數度御遺被下候處追々延引奉謝候云々トアツテ反テ該地引渡ナ
 被告ニ於テ違約致シタルコト判然ナリトス
 第二條 被告ハ右甲第五號証ノ書簡ニ其封シメニ見留印ヲ押捺シ
 置タル等ナルニ其見留印無之上ハ被告カ差送リタル書簡トハ難認ト正
 申立ツレモ被告カ明治十四年十二月一日ノ對審席ニ於テナシタル口
 供ニハ右甲第五號証ハ原告ニ於テ迎モ殘金調達ニ差支タルカ故ニ之
 ヲ借用証書ニ致シ地所引渡シ呉ル、續被申候ニ付篤ト熟考ノ上挨拶
 可及旨申聞ケ置キ種々工夫モ仕候得共何分他ニ調金ノ目途無之内尙
 原告ヨリ催促致サレタルニ依リ即チ右甲第五號証ノ手簡ヲ遣シタリ
 トアリ夫レ如斯甲第五號証ヲ認メ此辨論ヲ爲マナカラ又甲第五號証
 ハ難認トノ申分ハ信用シ難キノ申立ナリトス然リ而シテ右甲第五號
 証ノ書簡ハ原告カ殘金調達ニ差支其殘金ヲ以テ借用証書トナシ地所

ヲハ引渡シ呉レヘシトノコトニ對シタル書簡ナリトモ平然レハ何ソ
 該証中ニ地所追々延引セリト云ヒ又御許容相願フトノ文語ヲ用ユヘ
 キノ理アラソヤ俄テ被告申分ハ一切採用セム
 第三條 前兩條ノ理由ナルニ依リ被告ハ原告請求ノ通該地賣渡シ殘
 金七十田ヲ受取リタル上ハ該地ヲ原告ヘ引渡シ且地券書換ノ手續ヲ
 モ爲スヘキ事
 但被告ハ尙此他數条ノ申立アリト雖モ本訴ノ要點ニ非サルヲ以テ
 判旨ヲ與ヘス訴訟入費ハ成規ニ照シ被告ノ負擔タルヘキ事
 第三十號

質入宅地受戻シ請求ノ件 明治十五年二月十七日言渡
 裁判言渡書

原告千葉縣下総國東葛飾郡

松戸驛二百九十二番地平民

小畑 四郎兵衛

被告同驛六十六番地平民羽

生榮吉代人同郡豊四季村二

十一番地平民

山 本 清 藏

被告同郡松戸驛九番地平民

宮内コウ後見人平川八五郎

代人同郡名都借村平民同國

千葉郡千葉町二百七十一番

地寄留

染 岡 善 左 衛 門

被告同國東葛飾郡松戸驛二

百九十二番地平民劍持コソ

後見人八木原五右衛門代人

同國千葉郡千葉町二百七十

七番地平民

鈴 木 喜 三 郎

質地受戻ノ訴訟原被兩造カ訴答ノ大意左ノ如シ

原告請求ノ要領

本訴改正宅地反別三畝廿八歩ノ地ハ明治二年七月中代金三十圓ヲ以
テ被告羽生榮吉方へ讓與セシモ其實質地ナルニ付追テ甲第一二號証
ノ如ク受戻シノ約ヲ爲シ其期限明クルテ待テ催促ニ及ヒタル處榮吉
ニ於テ尙ホ之ヲ被告宮内コウ方へ質地ニ相渡シ又々コウヨリ被告劍

持コン方へ質入致セシニ依リ至急返地ノ場合ニハ立至リ難キ旨ノ挨拶セテレシニ因リ一應コウ及ヒコソ方へモ談示ニ及ヒタル處コソ於テハ原告ノ所有地ナルヲ確認シ甲第五號証ヲ差入レシモコウ於テハ地券名受致セシ趣ヲ以テ之カ受戻シテ抗拒セリ然レモ該地ハ榮吉ヨリ受戻シ得可キ筋ナルヲハ前陳ノ如クナルヲ以テ假令コウ於テ地券名受ケテ爲シタレハトテ之カ効果ヲ生ス可キ條理無之ニ據リ右元代金三十田ヲ以テ直チニコウヨリ受戻シ度トノ事

被告答辨ノ要領

羽生榮吉ニ於テハ論地ハ甲第一二號証ノ如ク一旦返地ノ約ヲ爲セシモ既ニ甲第二號証ノ約期ヲ經過シタレハ最早該証書ノ契約ハ消滅シ之ヲ原告へ返地ス可キ筋無之何ソトナレハ抑該地ハ乙第一號証ノ如ク讓リ受ケタル地所ナルヲ慈愛ヲ以テ一時甲第一二號証ノ如ク返地

ノ約ヲ爲セシモノナレハナリ殊ニ又該地ハ宮内コウ方へ質地ニ差入レシモ末々流地セシモノニ非サルヲハ現ニコウナルモノカ携帯セル丙第一號証ヲ以テ視ルモ明ラカナリトス然ルニコウ於テハ其地券發行ノ際コウ先代亡文治郎ナルモノカ尺長ニシテ該地ノ地券ヲ擅受シタルヲ口實ト爲シ其際泪金十田ヲ與へ爾有權ヲ得タルカ如ク喋々スレモ該金員ヲ受取タルヲナキノミナラス其所有權ヲ移シタルヲモ亦決シテ無之故ニ其丙第一號証ノ期限即チ明治十三年十二月ヲ經過シタル以上ハコウ方ヨリ受戻シ得ラルヘキ地所ナルヲハ勿論ナレモ原告へ返地スヘキ條理無之トノ事

宮内コウ後見人平川八五郎於テハ論地ハ明治四年六月中丙第一號証ノ如ク質地ニ取置タルニ相違ナシト雖モ其後地券發行ノ際泪金十田ヲ榮吉へ與へ其所有權ヲ得テ以テ地券名受ケ致シタレハ右丙第一號

証ノ契約ハ其時ニ消滅シ爾來我カ所有地ニ確定シタル次第ニ付之ヲ返地スヘキ義務無之最モ該地ハ一時劍持コソ方ニ質入致セシモ明治十四年八月中受戻シ目今所持致シ居ルトノ事

劍持コソ後見人八木原五右衛門ニ於テハ論地ハ明治四年六月中宮内コソ方ヨリ質地ニ取置シヤレ其後明治十四年八月中示談ノ上返地シタルヲ以テ目今所持致サ、ルナリ又該地ヲ質地ニ預リ中甲第五號証ヲ原告ヘ附與セシモノハ當時原告カ榮吉並ニコソ等ヨリ該地受戻シノ談判相整シ趣申聞ケラレシニ依リ突然引揚ケラレシヲ怖レ原告ノ需メニ從ヒ差入レタルモノニシテ當時該地ヲ原告ノ所有地ト確認シテ附與シタルモノニハ無之トノ事

右ハ原被兩造カ供述スル要領ナルヲ以テ之ヲ審理判決スルノ左ノ如シ

一被告羽生榮吉ニ於テ論地ハ甲第二號証ノ約期ヲ經過シタルヲ以テ返地ス可キ筈無之トノ申立ナレ其甲第二號証ヲ査閱スルニ(明治四未年六月ヨリ明治十年十二月中迄ニ金子調金被成候得ハ可相戻旨戻リ証差出置候處確實也依テ客年十二月三十日該地所受戻シトシテ調金ノ上御談判有之ニ付直チニ差戻シ可申ノ處云々)及ヒ(當明治十一年ヨリ來ル十三年迄三ヶ年間受戻シノ延期申入候處速ニ御承諾被成辱存候云々)等記載有之由之觀之該地ハ明治十年十二月三十一日現ニ原告カ受戻シ得ラル可キモノナ當時榮吉ノ情願ニ因テ延期セシモノナルヲ明白タレハ假令其延期當日即チ明治十三年十二月三十一日ヲ經過シタレハトテ何ソ原告カ該地ヲ受ケ戻シ得可キ權利ヲ夫スルノ理アラソヤ故ニ其甲第一二號証ノ契約ハ未タ消滅シタルモノト看做スヲ得ス因テ該地ハ榮吉ヨリ原告ヘ返地ス可キ義務有之モノト認定

ス
 一被告宮内コウ後見人平川八五郎於テ論地ハ最初丙第一號証ノ通質
 地ニ取リシニ相違無キモ追テ地券發行ノ際協議上流地ト爲シ之カ所
 有權ヲ得タルカ如ク申立ツレモ其丙第一號証ハ明治四年ヨリ十一年
 季ノ質地証書ナレハ其地券發行ノ節ハ質地年季中ナルコト論テ俟タサ
 ルナリ然ルニコウ於テハ現在該証書ヲ護持シテカテ其之ヲ流地ト爲
 セシ証據無之上ハ榮吉申立ノ通該地ハ未タ質地ノ性質ヲ脱シタルモ
 ノニ非サルノミナラスコウ於テ該地ノ地券申受ケタルハ全ク文治郎
 ノ擅斷ニ出テタルモノト看做サ、ルヲ得ス况ンヤ該地ハ前項ニ論ス
 ルカ如ク榮吉ニ於テ之ヲ所有ス可キ權非サル以上ハ從テ榮吉トノ間
 ニ爲シタル契約ハ無効ニ屬ス可キモノナルニ於テテヤ因テハ之ヲ原
 告ニ返地ス可キ條理無之トノ八五郎申立ハ採用シ難シ

一右平川八五郎ニ於テ明治五年地券發行ノ際該地ヲ流地ト爲ス洎金
 トシテ金十圓相渡セシカ如ク申立レトモ果シテ之ヲ相渡シタル証ノ
 觀ル可キモノ無之ニ依リ之ヲ榮吉ニ相渡シタルトノ八五郎申分ハ相
 立チ難シ
 一被告劍持コウ後見人八木原五右衛門於テ曩キニ論地ヲ質地ニ預リ
 中甲第五號証ヲ附與セシモ之ヲ原告ノ所有地ト認メタル筈ニハ無之
 旨申立ツレモ該証書中(資殿御所有之横町宅地云々)又(借受候處實正也)
 等ノ文言有之上ハコウ於テ當時該地ヲ原告ノ所有地ト信シタルコト必
 定ナルヲ以テ該証書ハ蓋シ論地ノ流地セシモノニ非サルコト証スル
 ニ足レリトス
 一前項ノ理實ナルヲ以テ被告宮内コウ於テハ該地ヲ所有ス可キ權無
 之ニ付原告ノ請求ニ應シ其元代金三十圓ヲ以テ該地ヲ請戻サシム可

キ事

但訴訟入費ハ規則ニ照ラシ被告羽生榮吉並ニ宮内ヨウ於テ負擔タル可シ

第三十一號

預ケ田地取戻シノ件 明治十五年二月十七日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣上総國市原郡菊間村二百四十三番地士族下総國印旛郡下方村五百十六番地寄留渡邊清太代人上総國市原郡瀬又村四十番地平民

稻生孝治郎

被告同郡若塚村八十六番地士族三島久七代人同郡五所金杉村四十三番地平民

辻井榮治郎

預ケ田地取戻シノ詞訟審理ヲ遂ケ判決スル左ノ如シ
原告於テ論地ハ明治十年十二月中甲第一號証ノ通被告三嶋久七ノ周旋ニ因テ買求メシヲ便宜ノ爲メ之ヲ被告ヘ預ケ置キタル處豫テテ約定致セシ如ク得米ヲ送ラサルニ付速ニ取戻シ度旨申立ツレモ被告ニ於テハ該地ハ乙第一號証ノ通小山小平ナルモノヨリ直チニ買受ケ已ニ乙第二號乃至第四號証ノ地券申受ケタル被告ノ所有地ニシテ原告ヨリ預リタル地所ニハ固ヨリ無之又原告所持スル甲第一號証ハ當時

金員入用ノ筋有之原告へ借用ノ願談ニ及ビタル處該証ノ如キ証書ヲ
 差入レナハ金員用立テ可クトノ申聞ケニ從ヒ其金員借用ノ節交附セ
 シモノナレハ其實一ノ借用証書ニ過キサルナリ然ルニ原告ハ該証書
 有之ヲ口實ト爲シ漫ニ本訴ヲ起セザハ不當ト云フ可シ殊ニ該金員ハ
 乙第五六號証ノ通既ニ返濟致セシニ因リ原告ノ請求ニ應ジ難キ旨申
 立ツルヲ以テ其乙第五號証ヲ査閱スルニ一金二十七圓五十錢但シ年
 一割五分ノ利及ヒ金請取之証一金十四圓五十錢也右者明治十年十二
 月五日附合反別二反十九步ト記載之証書金ノ内云々等ノ明文有之且
 乙第六號証ニ於ケルモ亦タ同様ノ文言記載有之ノミナラス右二反十
 九步ト記載之証書ト有之ハ甲第一號証ヲ指示シタルモノナルコトハ原
 告ノ自供ニ因テ明カナレハ該証書ハ被告申立ノ通其金員借用ノ爲メ
 附與シタルモノト看做サ、ルヲ得ス況ンヤ原告ハ特リ甲第一號証ヲ

所持スルノミニテ果シテ該地ノ所有者ト認ム可キ實跡無之ニ於テ
 ヤ因テ原告ハ被告へ對シ乙第六號証ニ異議アル廉ヲ以テ該金員ノ返
 濟ヲ促スハ格別ナレトモ該地受戻シ度トノ訟求ハ不相立事
 但訴訟入費ハ規則ニ照シ原告ニ於テ擔當ス可キ事
 第三十二號

貸金催促ノ件 明治十五年二月二十日言渡

執行言渡書

原告千葉縣下総國千葉郡寒
 川村二百九十一番地平民布
 施市郎代人同村三百三番地
 寄留平民

金 坂 松 治

被告同郡高田村六十九番地
平民高橋半兵衛代人同郡古
泉村三十二番地平民

嶋田 乙吉

貸金催促之詞訟審理スル處

被告於テ本訴借用金ハ返済ノ義務相辨ヘタルヲ以テ再度濟方延期ヲ
乞ヒタルニ調金不行届ニ付今數日間猶豫受度旨中立ツレニ原告之ヲ
肯ンセサルニ依リ原告請求スル元利金二十六圓四十六錢ハ身代限ヲ
以テ償却スヘク且訴訟入費モ規則ニ照ラシ被告ヨリ償フヘキ事
第三十三號

田畑屋敷山林不正ノ賣買取消ノ請求ノ件 明治十五年二月二十日言渡
裁判言渡書

原告千葉縣上総國山邊郡養
安寺村十四番地平民石田政
右衛門後見人同郡山口村三
十番地平民

小幡 新左衛門

被告同郡養安寺村二十番地
平民當時同國長柄郡五井村
十八番地寄留高浦八五郎同
國山邊郡南玉村十七番地平
民金坂重五郎代人下総國
千葉郡千葉町十七番地寄留
平民

地所不正ノ買賣取消シ訴訟如左判決ス
 原告ニ於テ本訴訟地ハ原告實父清兵衛於テ甲第一二號証所有地ノ内
 田畑屋敷山林共合反別一町二反七畝十八步ヲ甲第三號一ヨリ八迄ノ
 質地証書ヲ以テ被告高浦八五郎ニ差入質代金二百七十二圓返
 濟スル上ハ何時ナリニ返地セラルヘキノ契約ハ甲第四五號証ノ如ク
 ナリシニ被告右八五郎ハ原告カ返地ヲ促カスモ其需メテ拒絕スルニ
 付明治十三年十月中右八五郎ニ對シ質地受戻シ請求ヲ爲シ其末千葉
 支廳ニ於テ甲第七號証ノ通該地ハ原告請求ノ通受戻サシムヘントノ
 裁判ヲ與ヘラレ故ニ原告ハ右裁判確定ノ日ヲ待テ執行致スヘキノ順
 序ヲ辨ヘ先ツ該村戸長役場ニ對シ該地ハ爭訟中ノ地所ナレハ勝手賣
 買差押ヘノ義ヲ要求シタリ而ルニ被告八五郎ハ該件ノ曲者タルヲ豫

知シ已ニ該地ヲ以テ被告金坂重五郎ニ賣渡シタリ然リト雖モ其賣買
 ハ原由不正ニ成立ナラズモノコ付之ヲ取消シ該裁判確定ニ至ル迄ハ
 被告八五郎於テ之ヲ保全致ス様致度トノ請求ナレモ被告ハ右甲第七
 號証千葉支廳ノ裁判ニ服セシテ控訴ヲヨヒ今般乙第一號証ノ如ク
 當原告控訴被告ハ甲第六號証ニ據リ田畑山林ノ受戻シヲ請求スヘキノ權利
 ナキモノトノ終審裁判ヲ與ヘラレタル上ハ隨テ本訴被告高浦八五郎
 カ該地ヲ以テ被告金坂重五郎ニ賣渡シタルモ不正ノ賣買ナリト云フ
 ヘキノ權利ナキモノトナリタル筋合ナルニ依リ該訴狀ハ却下致候事
 但訴訟入費ハ成規ニ照ラシ原告ノ負擔タルヘキノ事
 第三十四號

預ケ金取戻シ請求ノ件 明治十五年二月廿一日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣下總國香取郡須賀山村白三十五番地平民五十嵐善兵衛代官人同國千葉郡千葉町六百四十一番地平民

津田定右衛門

被告同國香取郡川頭村三十番地平民
一番地平民中嶋治兵衛代官人
同郡増田村五番地平民

加藤喜右衛門

預金催促ノ訴訟審理裁判スル左ノ如シ
被告ニ於テ原告提供スル甲第一二三號証ヲ附與シタルコト無キノミナ

ラス其印影モ亦々相違セリ加之該証書面ノ金額ハ曾テ預リタル覺無之ニ依リ原告ノ請求ニハ應シ難キ旨陳述スレトモ原被告ノ請願ニ因テ被告村方戸長役場ノ改正地引帳及ヒ地價一筆限帳又ハ印鑑帳等ニ有之被告ノ實印ニ照ラシ其甲第一二三號証ノ印影眞偽如何ノヲ鑑定セシムル處何レモ同印ニシテ毫モ相違ノ麻無之旨証明セリ由是觀之該三通ノ証書ハ事實被告ヨリ附與シタルモノト看做サ、ルヲ得サルニ付本訴金員ヲ預リタル覺無之トノ被告申立ハ採用シ難シ因テ被告ハ原告請求スル金千六百四十四圓三十六錢二厘五毛ヲ速ニ償却ス可キ事但被告所持スル乙第一號乃至九號証ハ本訴金員ニ關係無之旨原被告ノ申供符合スルヲ以テ別ニ裁判ヲ與ヘズ且訴訟入費ハ規則ニ照ラシ被告ニ於テ擔當ス可シ

第三十五號

貸金催促ノ件 明治十五年二月廿一日言渡
裁判言渡書

原告千葉縣上総國夷隅郡櫻
臺町四番地平民野村金兵衛
代人同町十三番地平民

江澤宇兵衛

被告同郡須ヶ谷村五十三番

地平民高師龜吉後見人高師

沖右衛門代言人下総國千葉

郡千葉町二百二十番地寄留

平民

麻生致

引合人右高師龜吉實父

高師沖藏

貸金催促之詞訟審理ヲ遂ケ裁判スルノ如シ
一引合人沖藏於テハ原告提供スル甲號金百五十圓ノ借用証ノ成立ハ
別ニ証左ハアラサシテ該証書ヲ以テ原告ハ金策ノ周旋相頼ニ其際金
主未定ニ付宛名ヲ記サズ渡シタルモノニテ其後右金策ハ整ハサル趣
ニ付其儘ニ差置タリ然ルテ原告ハ該証書ハ自己ノ宛名ヲ記入シ六月
ヲ張紙シテ五月ニ改メ沖藏實印ニ類似ノ印ヲ押捺シタルモ全ク借用
シタル金員ニアラサレハ相續人ノ被告ハ掛リ之ヲ返金ヲ促カスハ不
當ナル旨申立ツルモ原告於テハ否ヲサル旨抗辨スルノミナラズ甲號
証ヲ代書シタル田邊喜兵衛於テハ沖藏ノ依頼ニ應シ該証書ノ全面ヲ
記載シタルハ勿論五ヲ六ニ書損シタルヲ以テ張紙シ書改メ遣ハシタ

ルモノナリト言ヒ又原被告引合人等ノ請願ニ依リ該証書沖藏名下其
 他ノ實印ト張紙ノ箇所ニ押用シタル印影トテ印工職ヲシテ鑑定セシ
 ムルニ同印ナル旨申立タリ是ニ由テ之ヲ視レハ甲號証ノ金額ハ明治
 十四年五月十三日沖藏カ原告ヨリ借用シタルモノナリトス
 一被告ニ於テ甲號証ノ全員ハ前頭ノ如ク沖藏於テ借用セサル旨申立
 且同人ハ明治十四年六月二日ニ隱居シタルモノニテ其後ニ成立タル
 甲號証ニ對シ相續人ノ被告ハ償却スルノ義務ナキ旨申立ツレモ前条
 ニ判決スル如ク付沖藏ノ家督ヲ繼キタル被告カ之ヲ償却スル當
 然ノコトナレハ原告請求スル元利金百六十一圓十九匁ハ速ニ返辨スヘ
 シ且訴訟入費モ規則ニ照ラシ被告ニ於テ負擔スヘシ
 第三十六號

滅家再興故障差除キノ件 明治十五年二月廿四日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣下総國印旛郡上
 勝田村四十一番地平民矢澤
 トキ代人同國千葉郡千葉町
 七十四番地平民

梶 崎 治

被告同縣同國印旛郡上勝田
 村四十五番地平民

檜 垣 五 郎 兵 衛

滅家再興故障差除之詞訟審理ヲ遂ケ裁判スルコト如シ
 被告於テ去ル天保六年ニ死亡シ滅家シタル矢澤兵左衛門方ハ我本家
 ナルヲ以テ該家名ヲ再興セシムルハ被告カ次男丑松カ順序ナル旨申

立ッレ由原告於テハ兵左衛門方ハ同シク我本家ニシテ原告カ該家ヲ再興セシメントスルニ女キンハ右天保六年ニ死亡シタル兵左衛門ノ爲メニ從父妹ノ子ニテ血統近キヲ以テ甲第一號証ノ如ク親屬協議ヲ遂ケ再興ノ儀ヲ其筋ヘ出願シタルニ被告故障スルヲ以テ許可不相成次第ニ付速ニ其故障ヲ差除キ復旨要求スルヲ以テ原被告ノ内何レカ兵左衛門ニ親疎アルヤヲ審問スルニ被告ハ四代以前ニ兵左衛門ノ祖先ヨリ分家シタルモ二代目ヨリ當被告ニ至ル三代共悉ク他ヨリ養子ニナリタルモノニテ其子丑松ニ至リテハ兵左衛門ニ對シ血統頗ル薄ク之ニ反シ原告カ父矢澤武八ハ兵左衛門ノ叔父ニシテ其孫タル原告ノ二女キンヲシテ再興セシムル方順序ト爲スヲ以テ原告カ右再興願ニ付被告ハ之カ故障ヲ爲スヘカラサル儀ト心得ヘキ事但訴訟入費ハ規則ニ照ラシ被告於テ負擔スヘシ

第三十七號

貸米代金催促ノ件 明治十五年二月廿四日言渡

裁判言渡書

原告 千葉縣上総國山邊郡西
 中村ニ番地平民嘉瀬良助代
 入下総國千葉郡千葉町八十
 番地平民

鵜澤雄助

被告 同縣上総國山邊郡小沼

田村五十二番地平民

石橋清兵衛

貸米代金催促ノ訴訟審理ノ上如左判決ス

被告ニ於テ原告提供スル甲第一號証書ヲ差入米三十四俵ヲ借用シ尙
 甲第二號証書ヲ差入延期ヲ爲シ其際右米三十四俵ノ代價金ハ不相當
 ナルヲ以テ之ヲ承諾爲サ、リシニ右甲第二號証ノ返濟期限元利滯ル
 モ明治十五年五月迄ハ猶豫ヲ與ヘ呉レヘシトノ事ナルヲ以テ甲第二
 號証ノ契約ヲ爲シタル次第ナレハ原告ノ請求ニ難應ト申立ツルト雖
 モ甲第二號証ハ被告カ承諾ヲ以テ之ヲ原告ニ附與シ尙原告ハ右猶豫
 ヲ與ヘシト無之ト申立ル上ハ被告申分不相立ニ付原告請求ノ元利金
 百十九山六十三匁三厘五毛ハ速カニ償却致スヘキ事且訴訟入費モ被
 告負擔タルヘキ事

第三十八號

損害要償請求ノ件 明治十五年二月廿四日言渡

裁判官渡書

原告千葉縣上総國長柄郡小
 澁村一番地平民古山源左衛
 門外二十二名代言人下総國
 千葉郡千葉町九十七番地寄
 留茨城縣平民
 被告千葉縣上総國長柄郡小
 澁村五番地平民古山三郎兵
 衛代同人長男
 古山廣作
 被告同郡川島村七十五番地
 平民市原太右衛門代人同國

上植生郡長南宿三百二十六
番地平民

今 關 象 二 郎

損害要償ノ詞訟審理ヲ遂ケ裁決スル左ノ如シ

一原告ニ於テ論地ハ褻キニ上市場村久我徳右衛門方へ質地ニ渡セシ
テ徳右衛門於テ尙被告市原太右衛門方へ質入致セシニ依リ太右衛門
へ談示ノ上質地元代金二百五十圓ニテ受戻サル、答ノ約定ヲ爲シ甲
第二號証寫ノ如キ返リ証書ヲ太右衛門ヨリ受領シ同シ被告タル古山
三郎兵衛へ預ケ置タリ然ルヲ以テ其期限ニ至リ之ヲ受戻シ度心得テ
以テ先ツ其返リ証書ノ取戻シ方ヲ三郎兵衛ニ掛合シモ兎角曖昧ノ答
ノミ致シ居リ埒明カサルニ付不得止出訴ニ及ヒタル處豈圖シ甲第三
四號証ノ如キ裁判ヲ受ケ終ニ該返リ証書ハ取戻ス可能ハサルモノト

確定セリ然レトモ事實甲第二號証ノ如ク約定ヲ遂ケタルニ相違ナキ
ヲ以テ該約定ノ旨趣ニ基キ速ニ地所受戻シ度旨申立ツレト太右衛門
ニ於テハ甲第二號証ノ如キ証書ヲ附與シタルヲ無之ハ勿論如斯契約
ヲ結ヒタル覺曾テ無之旨開申シ剩太右衛門於テ當時必ス甲第二號証
ノ如キ証書ヲ附與シタルモノト認知ス可キ証據無之上ハ特リ原告ノ
陳述ノミヲ以テ果シテ該契約ヲ結ヒタルモノトハ看做シ難シトス其
シヤ暫ク原告申立テノ如ク右返リ証書ヲ授受シタルモノト假認スル
モ其約定期限ノ后既ニ數年月ヲ經過シタル今日ニ至リ俄カニ受ケ戻
シテ請求ススル其効無キモノトス况ンヤ原告ハ固ト該地ノ所有者ト
認ム可キ証據無之ニ於テテヤ

一原告ニ於テ甲第二號証ノ本書ハ全ク古山三郎兵衛カ奸曲ヲ以テ隱
匿シタルニ相違無之ニ付若シ市原太右衛門於テ之ヲ返地セサレハ原

告ハ夫レカ爲メ損害ヲ被ムルヲ僅少ナラサルヲ以テ其償トシテ原告
 六號証ノ鑑定代價ノ内右質地元代金ヲ扣除シ其剩ル金額ヲ三郎兵衛
 ヨリ受取度旨申立ツレト抑甲第二號証ノ本書有無ニ拘ハラス原告ガ
 該地ヲ受戻シ得可キ權利無之ヲハ已ニ前項ニ説明スル如クナルヲ以
 テ從テ損害ヲ生ス可キ條理無之ニ據リ之カ倍々テ得度トノ原告申立
 ハ採用シ難シ

一前顯ノ理由ナルヲ以テ原告ノ請求總テ不相立事

但訴訟入費ハ規則ニ照ラシ原告ニ於テ擔當スヘシ

第三十九號

家督相續爭ヒノ件 明治十五年二月廿五日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣下総澁東葛飾郡

上花輪村八十九番地平民

高 梨 熊 吉

被告同村同地平民高梨六右

衛門代人同郡野田町百七十

八番地士族

櫻 井 庄 太 郎

押領戸主廢シ同財産引戻之詞訟審理ヲ遂ケ裁判スルヲ左ノ如シ
 原告於テ被告寅吉事六右衛門ハ原告亡父六右衛門ノ弟ニシテ父六右
 衛門ハ明治四年二月死亡シ其際原告ハ幼少ナルヲ以テ叔父即チ被告
 カ一時後見タリシモ家督ハ原告於テ繼承スヘキハ當然ナルカ故其旨
 村役場へ届置タリ又戸籍簿ニ兄六右衛門亡長男熊吉ト記名アルヲ以
 テモ父ノ家督ヲ繼承スヘキハ勿論ナリ然ルテ被告カ私擅ニ戸主トナ

リ財産ヲ占有シタルハ實母シノカ會テ千葉縣廳ヘ呈シタリシ甲第二號証ニ依ルモ明瞭ニシテ決シテ被告カ戸主タルヲ原告於テ承諾シタルニ非サレハ被告カ戸籍ヲ寅吉ニ改メ而シテ戸主ヲ廢シ占有ノ財産悉皆取戻旨申立ツレモ被告於テハ去ル安政四年中親屬協議ノ上兄六右衛門ノ順養子トナリ嗣子ニ定メ置シシ處明治四年二月ニ至リ兄死亡セシ故戸主トナリ六右衛門ト改名シ曩ニ兄カ相勤メタル組頭役ヲモ舊葛飾縣ヨリ命セラレシ程ノ儀ニテ決シテ私擅ニ兄ノ家督ヲ繼キ財産ヲ占有シタルモノニ無之旨抗辨スルハミナラズ原告於テ父死亡ノ際家督ヲ繼キ村役場ヘ届置タル証跡ナク又戸籍簿ニ兄六右衛門亡長男熊吉ト記シ而シテ被告カ戸主ナルヲ以テ姪ノ名義ヲ付シタルハ戸籍上素ヨリ當然ノナリ且又母シノカ一旦縣廳ヘ呈シタリシ甲第二號証ハ原告ノ強迫ニ依リ不得止ノ所爲ニ出タル書面ナル旨

シテ自ラ當廳於テ供述スルノミナラズ乙第二號乙第四號母シノ及ヒ親屬小林彦右衛門外二名ノ書面ニ（前略親戚協議ノ上同人右衛門存生中去ル安政四年二月中右寅吉事當時六右衛門ナル者ヲ順養子ニ致シ嗣子ニ相定置其後明治四年二月二日兄事養父六右衛門病死致シタルニ付同人ヲ戸主繼續ニ差定メ）云々トアルヲ視レハ被告カ私擅ニ戸主トナリ財産ヲ占有シタルニ非サルヲ判然タリ加之原告ハ乙第三號証ヲ以テ自己及ヒ妻ノ不所業ヲ被告並ニ母シノハ託入リシ時被告カ會テヨリ戸主タルヲ自ツカラ承諾シタルニアラスヤ以上ノ衆証ニ依リ原告ノ請求ハ總テ不相立儀ト心得ヘキ事

但訴訟入費ハ規則ニ照ラシ原告於テ負擔スヘシ

第四十號

貸金催促ノ件 明治十五年二月廿五日言渡

裁判言渡書

千葉縣下総國香取郡大根村
三十一番地平民高城清左衛
門代言人同國千葉郡千葉町
六十八番地寄留平民

原告

松崎 謹 吾

同國香取郡下小野村五十七

番地平民

被告

玉井 幸 吉

貸金催促ノ訴訟審理如左判決ス
被告ニ於テ本訴原告カ提供スル金三百圓ノ証書ハ原告ヘ差入タルニ
相違無之モ未タ該金員ヲ受取リタルモノニ無之無實ノ証書ナルヲ以

テ其請求ニ難應旨申立ルト雖モ果シテ該金員ハ未タ受取ラサルモノ
ナリトノ証左無之原告ハ該証書ヲ以テ右三百圓ヲ被告ヘ貸與ヘリト
申立ル上ハ被告申分不相立ニ付原告請求ノ元利金三百二十圓ハ速カ
ニ償却致スヘキ事

但訴訟入費ハ成規ニ照シ被告ノ負擔ナルヘキ事

第四十一號

用氷路開設要求ノ件 明治十五年二月廿七日言渡

裁判言渡書

千葉縣下総國匝瑳郡宮河村
ノ内字西高野里二百三十一
番地平民大木新右衛門外十
六名総代人餘

原告 馬場太郎左衛門

千葉縣下総國匝瑳郡高野村

平民柏熊清右衛門外九名代

兼同村三十六番地平民

被告 柏熊庄左衛門

同縣同國同郡同村三十三番

地平民

被告 大木六郎左衛門

用水路溝妨害回復之訴訟審理ヲ遂ク判決スル左ノ如シ

第一條 原告於テ用水路即チ被告村宇登城谷ヨリ原告村小橋戸迄ノ

路溝ヲ開設セシメテ甲第一號証ヲ以テ論據トナシ被告村ニ要求ス

ルト雖モ該証ハ之カ要求ヲ爲スニ完全ノ証憑ト爲スニ足ラサルナ

リ何トナレハ其証末文ニ(若シ兩村ノ内一方濁水ニモ罷成申候ハ右ノ溝相潰シ古來ノ通りヲエテノ樋口ヨリ如先年云々)トアリ此意ヲ解スレハ則チ一方濁水ニ臨ム時ハ輒ク之ヲ潰シ得ルト云フコアリ而シテ現ニ被告村即チ論所ノ用水路ナキニ由テ之ヲ觀レハ甲第一號証ノ成立チシ年度即チ享保年度ヨリ以後ニ於テ旱魃濁水ノ際該契約ノ如ク其溝ヲ潰シタルモノト推測シ得ヘタレハナリ故ニ原告村ハ之レカ開設ヲ要求センニハ被告村ハ濁水ナクシテ擅マニ之ヲ潰シタリトノ明瞭ナル証アルニアラサレハ之カ開設ヲ求ムルヲ得サルモノトス

第二條 原告ハ原告第三四號証ヲ呈供スルモ該証ハ啻ニ甲第一號証印影ノ真正ヲ保スルニ止マルモノニシテ本訴ノ論點ニ關スル所ナシ而シテ該第一號証ハ第一條ニ辨明スル如ク縱令原告村ニ存在ス

ルモ原告ハ被告村ニ於テ濁水セサルニ之ヲ潰シタリトノ明確ナル
証左ナキヲ以テ該第一號証ノミニテハ未タ本訴ノ證據ト爲スニ足
ラサルモノトス

前二條ニ辨明スル理由ナルヲ以テ原告於テ被告ニ對シ用水路開設ヲ
要求スル權利ナキモノト判定ス訴訟入費ハ原告ヨリ被告ニ對シ償却
ス可キモノ也

第四十二號

年賦貸金催促ノ件 明治十五年二月廿七日言渡

裁判言渡書

千葉縣下総國香取郡大寺村
四十五番地平民

原告 林 金 左衛門

同郡篠本村百八番地平民

實川 辨治郎

代 言 人 同 國 千 葉 郡 千 葉 町 六

十 八 番 地 寄 留 平 民

被 告 松 崎 謹 吾

年賦金催促ノ訴訟審理如左判決ス

原告於テ甲號証金百十圓ヲ被告實川辨治郎へ貸與フル處期限返金無
之ニ付速カニ濟方受ケ度旨申立ルト雖モ被告ハ右甲號証若シ期日返
金シ能ハサルモハ更ニ本証抵當ノ地ヲ以テ三ヶ年季質地トナシ相渡
スヘキ契約ナルヲ以テ本訴原告ノ請求ニハ難應旨申立ツルニ依リ右
甲號証書ヲ閱スルニ該証末段ニ(尙シ期日相滞候節ハ右抵當ノ地所更
ニ三ヶ年質地証ニ書換貴殿へ相渡シ可申候)トアツテ原告ハ曾テ被告

ニ對シ此豫約ヲ爲シタリ左レハ原告ハ假令被告ニ本訴借用金ノ滯リ
之レアレハ迎直ナニ其返金ヲ要ムヘキモノニ非ス因之原告ハ右甲號
証抵當ノ地ヲ以テ更ニ三ヶ年期質地トナシ之ヲ受取ルハ格別本訴元
利金償却ヲ受度トノ請求ハ不相立事

但シ訴訟入費ハ成規ニ照シ原告ノ負擔タルヘキ事
第四十三號

地所買代金取戻契約履行ノ件 明治十五年二月廿八日言渡

執行言渡書

原告千葉縣上總國市原郡姉
ヶ崎村百八十九番地平民齊
藤善兵衛代人下總國千葉郡
千葉町二百八十五番地寄留

平民

今井兵四郎

被告同縣上總國市原郡海保
村百四十四番地平民鈴木定
吉代人下總國千葉郡寒川村
二百九十一番地寄留平民

木下操

約定金催促ノ訴訟審理スル處

被告ニ於テ本訴金員ハ原告ノ請求ニ應シ償還ス可キ義務アルハ豫
ネテ辨知スル處ナレトモ俄カニ調金相成餘ヌル次第ニ付尙ホ金策中數
日間ノ猶豫ヲ乞ヒ度旨啓述スレトモ原告ニ於テハ已ニ再應延期ヲ與ヘ
タル未ナレハ最早一日ノ猶豫モ致シ難ク旨申立テ之ヲ肯諾セサル以

上ハ右金額ハ被告身代限ヲ以テ濟方可致義ト可相心得事
但訴訟入費ハ規則ニ照シ被告ニ於テ擔當ス可シ
第四十四號

年賦貸金催促之件 明治十五年二月廿一日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣上總國市原郡姊
ノ崎村二百七番地平民榎本
佐治兵衛代人下總國千葉郡
千葉町七百六十九番地平民
被告同縣上總國市原郡姊ノ
崎村百五十番地平民小泉善

斐 米 三

五郎代兼同村二百八十五番

地平民

市川宮次

貸金催促之訴訟審理如左判決ス

原告ニ於テ本訴甲號証金百圓ハ被告市川宮次ニ年賦ヲ以テ貸與フル
處年賦金員返濟致サ、ルニ付証書明文ノ如ク右宮次ハ勿論該証引受
人タル小泉善五郎ヨリ速ニ償却ヲ受ケ度旨申立ルト雖ヒ被告市川宮
次ニ於テハ右甲號証ハ宮次カ明治十一年度積金無盡ヲ發起致シ初會
落閣ナルヲ以テ乙第一號証無盡仕法帳ノ如ク其世話人タル原告並ニ
三澤久太郎ニ連名宛名ヲ以テ差入タル証書ナリキ今ヤ原告ハ其証右
久太郎ノ宛名ヲ截斷シ自己貸金ノ如ク之ヲ請求致シタルモノナルニ
付テ請求ニ難應旨申立タリ因テ甲號証書ヲ檢スルニ原告宛名ノ左邊

ハ狹隘ニシテ恰モ他ノ宛名ヲ截斷致セシモノ、如シ依之原告其他ノ者ニ於テ取扱ヒタル乙第一號証無盡仕法帳ヲ閱シ其帳簿中右甲號証書ニ適合セル項目ヲ左ニ掲ケンニ

第一 此度取設之講法ハ取脱ノ法ニテ圖數廿二本ノ内二口會主持初末ノ集金會主申受候事

第二 一口ニ付金五圓掛之事

第三 會度數ハ年二會年數十一年會數二十二會ニテ滿會相成集會定日每年十一月五日五月五日ト相定候事

第四 初會集金百圓會主借用候ニ付テハ向後掛金等ノ義若シ本人差支候節ハ親類小泉善五郎ニテ急度引受出金可致候事

第五 會主ヨリ差入ル証書ノ義ハ榎本佐治兵衛三澤久太郎宛ニテ榎本佐治兵衛カ預リ置候事

ト有テ此數項ハ悉ク右甲號証書ノ趣旨ニ適合シ加之連及三澤久太郎ニ於ケルモ右甲號証書ハ原告ト連名宛名ヲ以テ被告ヨリ取置タル証書ニシテ其証ハ原告へ相渡シ置タリト証言シ且丙號証書ヲ提出シタリ其証ニ曰ク(元金百圓市川宮次附コテ貴殿拙者二名宛ノ証正ニ預リ置候也)ト原告ハ云フ此丙號証ハ本訴貸金ニ對シ關係アルヘキモノニ非スト云ヒ又丙號証ハ印影相違無之モ被告並連及人等ノ取替ヘタルモノナラント申立レモ審ニ口頭迄ノ陳述ニシテ前數項ノ証左ニ據レハ原告ハ被告ヨリ右久太郎ト連名宛名ノ証書ヲ受取り之ヲ原告ニ受領シ居ルコトヤ明白ナリ然リ而シテ右被告ハ此數項ノ証左ヲ舉ケテ本訴原告ノ請求ヲ擊破スルニ方テハ原告ハ之レニ反對スル証左ヲ舉ケサル可ラス然ルニ其舉証ヲ爲ス能ハサルヲ以テ觀ルキハ右甲號証ハ被告申立ノ如ク右無盡講ニ付被告カ原告並ニ右久太郎へ連名宛名ヲ

以テ差入タル其証書ノ右久太郎名宛ヲ截斷シ本訴ニ及ヒタルヲ又
明白ナリトテ因テ原告請求不相立事

但訴訟入費ハ成規ニ照シ原告ノ負擔タル可キ事

第四十五號

貸金催促ノ件 明治十五年二月廿八日言渡

裁判言渡書

千葉縣上総國長柄郡下之郷

村七十六番地平民

原告 中村彌三郎

同國夷隅郡須賀谷村六十一

番地平民高師龜吉同人租父

高師沖右衛門代人同郡市野

々村十七番地平民

被告 所 七 左 衛 門

貸金催促ノ訴訟審理判決スル左ノ通

被告ニ於テ原告呈供スル甲第一號証ハ先代沖藏ヨリ附與シタルモノ

ニ相違無キモ同第二號乃至第五號証ハ同人ヨリ附與シタルモノニ無

之ノミナラス其印影モ相違ノ旨申立ツノモ原被ノ請願ニ依リ之ヲ甲

第一號証沖藏名下ノ印影比照シ印版師ヲシテ鑑定セシムルニ何レ

モ同印ニシテ相違ノ無之旨証明セリ由是觀之該數通ノ証書ハ事實

沖藏ヨリ附與シタルモノト看做サ、ルヲ得サルニ付該証書面ノ金員

亦從テ沖藏カ借用シタルモノト認定ス

被告ニ於テ甲第六號証ハ甲第一號証ノ負債金辨償ノ爲メ差入タル約

定証書ナルヲ該証書中一金三百九圓也但シ無抵當金利用証四通ノ

分元金メ高也)原告カ擅ニ記入シ毎テ被告カ關係ナキ甲第二號乃至五號証ノ金員モ共ニ返償ノ義務ヲ辨ヘタルカ如ク取拵タルカ故ニ原告請求ニハ應シ難キ旨申立ツレモ其甲第六號証ヲ査閱スルニ之ヲ原告カ擅ニ記入シタルモノト認ム可キ廉無之ノミナラス其明文中(本年四月已來貴殿ヨリ借金有之云々右借用金等總シテ返濟可致之處云々本年九月五日限り悉ク返濟可致約定云々)等ノ數語ヲ掲ゲタルモノハ何レモ二個以上ノモノヲ指示シ約定シタルモノト解シ得ラル、ヲ以テ特リ金二百五十圓ノミニ止マル可キ約定トハ看做シ難シ良シヤ暫ク被告カ陳辨セル如ク右金額ニ止マル契約ナリト假認スルモ苟モ現在其金高ニ超過セル証券印紙ヲ貼用シタル上尙ホ(印紙持合不足ニ付貴殿方ニテ御貼用可被下)ト記シ置可キ謂ハレ無之モノトス旁以テ該証書ハ原告申立ノ通金五百五十九圓ノ約定証書ト認ムルニ足レリト

ス

被告ニ於テ甲第二號乃至五號証ノ金員ハ假リニ先代沖藏カ借用セシモノトスルモ右ハ何レモ沖藏カ隱居后ノ負債ナルヲ以テ被告ニ於テ之ヲ辨償スルノ義務無之旨申立ツレモ抑沖藏カ退隱シタルハ明治十四年七月三日ナルハ該村戸長役場ノ戸籍簿ニ就テ見ルモ判然ナリトス然ルニ該數通ノ証書ハ渾テ其以前ニ授受シタルモノナレハ則チ沖藏カ該家ノ戸主中ニ係ル負債ナルヲ明瞭ナルヲ以テ跡相續人タル被告カ之ヲ辨償スルハ最モ當然ノ義務ナリトス然ルヲ況ンヤ甲第六號証ノ契約有之ニ於テヤ

前顯ノ理由ナルヲ以テ原告請求スル元利金四百二十六圓八十三錢三厘ハ勿論甲第一號証ノ利子ハ明治十年第六十六號公布利息制限法ニ超過セルヲ以テ更ニ年一割五分ノ利子ニ引直シ之ヲ原告カ需ムル處

ノ月數ニ照シ計算シタル金十六圓八十七錢五厘共都合金四百四十三圓七十錢八厘ノ處明治十四年八月中差入タル米十俵ノ代金三十圓被
ニ從テ引去リ殘金四百十三圓七十錢八厘ヲ速ニ被告ヨリ償却ス可
キ事

但訴訟入費ハ規則ニ照ラシ被告ニ於テ擔當ス可シ

千葉始審裁判所控訴判文

第一號

質入田地受戻シノ件 明治十五年二月十八日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣上総國山邊郡家
之子村自四十三番地平民亡
布留川友二跡相續人布留川
藤三郎後見人同入方同居平
民

被告同村九十三番地平民粹
田新吉代人上総國武射郡殿

質地受戻シ詞訟八日市場治安裁判所ノ裁判不服ノ旨ヲ以テ控訴致ス
ニ付審理ヲ遂ケ如左判決ス

第一條 被告ニ於テ本訴原告カ質地受戻シヲ要求スル字與惣芝下更
正田反別一反七畝九歩ノ地ハ乙第二號証明治二年二月原告先代彌兵
衛事友ニヨリ質地代金二十三圓ヲ以テ三ヶ年季質地ニ受取リ乙第三
號証増金三圓相渡シ尙乙第四號証ヲ以テ増金二十八圓ヲ相渡シ更ニ
明治十二年一月ヨリ明治十四年十二月迄ヲ期限ト定メタリシモ乙第
五號証尙金員入用ノ旨ニテ無心申入ラレタルニ依リ増金十八圓ヲ相
渡シ都合金七十二圓ヲ以テ該地ヲ買受ケタルモノナレハ今更返地難
致旨申立ツルト雖モ原告ハ乙第五號証ハ差入シテ無之印影相違致セ

ト申立ルニ付即チ印判職工之者三名ヲシテ被告面前ニ於テ乙第五
號証ニ押捺スル原告先代友ニノ印影ト同人カ曾テ被告ヘ差入レタル
乙第一號ヨリ四號ニ至ル証書印影ト原告カ今回差出ヌ地租上納切符
トニ押捺スル右友ニノ印影ニ照シ鑑定セシムル處何レモ乙第五號証
ノ印影ハ右友ニノ印影ニ相違致セル旨ノ申立ヲ爲シタリ因テ乙第五
號証ハ本案證據トハ爲シ難シ
第二條 前條ノ理由ナルニ依リ本訴原告カ提携スル甲第三號証及ヒ
被告ノ所持スル乙第四號証トテ閱スルニ該地ハ地券發行ノ際双方熟
議ヲ以テ被告カ地券名受致セシモ元増之合金五十四圓ヲ返濟セハ異
議ナク返地致スヘシトノ文旨ヲ掲ケリ因テ被告申分不相立間原告請
求ノ通該質地代金五十四圓ヲ受取リタル上ハ被告ハ速カニ該地ヲ差
戻シ且地券書換ノ手續キナモ爲スヘキ事

但シ被告ハ印刷師高橋藤吉ノ印刷鑑定書ヲ以テ再鑑定ヲ乞フト雖
モ再鑑定ハ容易ニ之ヲ許スヘキ筈ニ無之問之ヲ許スルハ訴訟入費ハ
成規ニ照ラシ被告ノ負擔タルヘキ事

（Faint, mostly illegible text in the right-hand column, likely a continuation of the legal proceedings or a separate section of the document.)

第三號

千葉治安裁判所判文

買受地所引渡履行ノ件 明治十五年二月八日言渡
裁判言渡書

千葉縣上総國長柄郡本納村
百七十四番地平民吉田伸庵
代人同村百八十二番地平民
原告 鶴岡千代
同縣同國同郡葦塚村二十番地
番地平民

買受地所引渡履行ノ件 訴訟審理ヲ遂行裁辨アリ左如シ
被告 並 木半 五郎

被告於テハ本訴ノ地所ハ原告代人鶴岡千代吉へ明治十一年十一月三日該地券証ヲ被告長男久米吉ヨリ貸遣シタルヲ有之其後屢々督促及
 プト雖モ未タ返戻無之處豈圖ンヤ明治十四年十一月中原告ヨリ該地
 ヲ買受タル杯約定書ヲ取持ヒ舊千葉區裁判所へ買受地履行ヲ出願ス
 ルモ決テ右等ノ約定ヲ爲シ証書ナ差入レタル覺ヘ毫毛無之加之該証
 書ニ押捺シタルハ被告實印ト相違ナル旨陳述ス原告於テハ然ラス既
 ニ甲第一號証ノ如ク直接ニ買買ノ約定ヲ遂ケ實印等押用シ置キ一時
 ノ遁辭ヲ以テ該地券証ハ原告代人鶴岡千代吉へ貸與シタルモノ杯ト
 無實ノ妄言ヲ主張シ其義務ヲ免カレント欲スルモ好策ナル旨申立タ
 リ然ルニ被告ガ前陳ノ如ク長男久米吉ヨリ地券証ヲ貸與シタルト言
 フモ日述マテニテ更ニ端緒モ無之又該約定証書ノ印影等相違ノ旨申
 立ツレトモ當廳於テ鑑定人ヲシテ其眞偽如何ヲ鑑定セシメタルニ被

告所持スル實印ニ毫毛相違ナキ旨ヲ陳述シタリ然ル上ハ之ヲ被告ヨ
 リ附與シ賣買ヲ爲シタルモノト見做サハルヲ得サルニ付該証書ニ對
 シ被告ハ原告請求スル地所ヲ速ニ引渡スヘキ事
 但訴訟入費ハ規則ニ照シ被告ヨリ償却スヘシ
 第四號

質地受戻ノ件 明治十五年二月十七日言渡

裁判官渡書

千葉縣下総國下埴生郡土屋
 村一番地平民新橋又左衛門
 隠居相續人
 原告 新橋 莊 輔
 同縣同國同郡同村八十番地

平民石原茂助代人同人長男

石原豊七

九十

質地受戻ノ詞訟審理ヲ遂ケ判決スルヲ左ノ如シ
 原告於テハ本訴ノ地所ハ明治六年十月甲第一號証ノ如ク原告所持ノ
 畑地ヲ被告石原茂助へ相預ケ金二十五圓ヲ借用爲シタリ然ルニ明治
 十年三月ニ至リ被告ヨリ談示有之該地ノ地券証ヲ被告名受ニ書換度
 旨尤調金ノ上ハ何時ニテモ速ニ地券面ハ書換返戻スヘキ口約有之ニ
 付其意ニ應シ双方ヨリ屆濟ニテ被告提供スル乙第二號証ノ如ク賣買
 ノ契約ヲ爲シタリ其後明治十年十一月ニ至リ被告へ示談ヲ遂ケ原告
 提供スル甲第二號証ノ如ク質代金二十五圓返濟ノ上ハ該地券証原告
 名前ニ書換フ上地所返戻スルノ約定ニ基キ質代金二十五圓ヲ被告へ
 相渡該地受戻度旨陳述ス被告於テハ該地ハ原告ヨリ質地ニ預リタル

ハ明治四年月日ハ失念シタレモ五ヶ年期ニテ金二十五圓ヲ貸渡シタ
 リ尤其際証書取置タルナレモ其後何レハ紛亂セシヤ當今更ニ見當リ
 難シト雖モ該地ハ既ニ明治十年ニ至リ期限ヲ經過スルモ原告ハ調金
 スル能ハス依テ示談ノ上流地ト相成被告提供スル乙第二號証ノ如ク
 被告へ地券証ヲモ書換公然所有權ヲ移轉シタルモノニシテ決テ原告
 ヨリ該地受戻ヲ爲ス請求ニハ應シ難シ且原告ハ甲第一二號証ヲ被告
 ヨリ取置タル旨主張スルモ被告ハ差入タル覺ヘ更ニ無之殊ニ該証書
 ニ押捺シアル印影ト被告所持スル實印ト相違セシハ是全ク原告カ取
 拵ヘタル証書ナル旨開陳ス依之原告提供スル甲第一二號証書印影ノ
 信偽如何ヲ當廳於テ印判鑑定人ヲシテ鑑定セシムルモ被告實印ト毫
 モ相違無之旨申立タリ且被告ハ該地ヲ明治四年度ヨリ質地ニ預リタ
 ル旨ヲ陳述スルモ口頭マテニテ証憑トナルヘキモノ無之故ニ甲第一

九十一

二號ノ証書ニ對スル答辨ハ被告中分相立サルモノトス尙該地ハ一旦
 賣買ヲ遂ケ所有權ヲ被告ヘ移轉シタルハ明治十年三月ナリ又原告提
 供スル甲第二號証書ハ明治十年十一月ナリ是レニ依テ觀之キハ被告
 へ所有權ヲ移セシ后ナ又原告へ該地ヲ返戻スルノ更改約ヲ爲シタル
 事ハ該証ニ依テ判然タリ然ル上ハ被告於テ原告へ對シ該地引渡ヲ差
 拒ムヘキモノニ非ス
 前顯ノ理由ナルヲ以テ被告ハ原告ヨリ質代金二十五圓ヲ受取タル上
 ハ速ニ該地ハ原告へ地券書換ヲ爲シ引渡ヘシ儀ト相心得ヘシ
 但訴訟入費ノ規則ニ照シ被告於テ負擔スヘシ

第五號

貸金催促ノ件 明治十五年二月廿七日言渡

裁判言渡書

千葉縣上總國上埴生郡八幡

原村三十番地平民

原告

峯 嶋 重 藏

同縣同國同郡同村三十六番

地平民東條セキ代人同縣下

總國千葉郡寒川村二百三十

七番地寄留平民

被告

佐 々 健 司

貸金催促ノ詞訟審理ヲ遂ケ判決スル上左ノ如シ
 被告於テハ原告提供スル甲第一號証ノ如キハ被告ヨリ付與シ金圓借
 用爲シタル覺毫モ無之尤該証書被告名下へ押捺有之印影ハ實印ニ相
 違無之其押用アル原因ヲ今回備考フルニ既ニ明治十三年十二月ヨリ

明治十四年一月ニ至リ被告ノ入夫兵吉ナル者ヲ離別ニ付差縫レテ生
 シ千葉縣茂原警察署へ出願ニ及ヒタル際原告峯嶋重藏及ヒ本訴ノ証
 書へ證人ト記載アル東條長四郎等へ百事依頼セシメアリ其際彼等兩
 名陰ニ申合セ被告實印ヲ自紙へ押捺シ取置キ後日借入金ノ証書ヲ取
 拵へ后ナニ文字ヲ書入タル證書ナリ且年月日ノ處ニ貼紙ヲ爲シ其調
 印モ被告實印ニ非ス旁以テ不正ノ証書へ對シ毫モ原告ノ該求ニハ應
 シ難キ旨ヲ陳述ス原告於テハ然ラズ甲第一號証ノ如ク金十九圓ヲ被
 告へ貸與シタルヲ明瞭ナリ然ルニ期限經過スルモ体能申延シ返濟致
 サルヲ以テ不得止今回元利金ノ返辨方ヲ訴訟ニ及フ處豈圖ノ被告
 ハ該証ヲ差入借入金ヲ爲シタル覺無之杯主張シ且實印ヲ押捺セシハ
 被告入夫離別ノ際裁筋へ出願ニ及ヒタル節原告カ陰ニ實印ヲ白紙へ
 押用シ置タル杯謂レナキ忘言ヲ主唱スルモ決シテ原告於テハ被告入

夫差縫レ出願ノ際毫モ關係セシメ無之是全ク一時ノ遁辭ヲ以テ返濟
 ヲ免カレントノ策ニ有之旨開陳ス依テ被告主張スル該証書ノ押印ト
 文字認メ方ノ前後ヲ鑑定者三名ニ命ジ鑑定セシムルニ何レモ文字ヲ
 認メタル后チ押捺セシ印影ニ相違ナキ旨申立タリ又年月日ニ貼紙ヲ
 爲シタル處ノ印影ハ証人東條長四郎ノ實印ナルヲ明瞭ナリ然ル上ハ
 原告カ擅ニ被告實印ヲ押捺セシ端緒トナルヘキ廉無之ニ付該証書ヲ
 被告ヨリ附與シタル覺ナシトノ申分ハ信用スヘカラサルモノトス依
 テ原告ハ貸金ノ請求ヲ爲ス權利ヲ有シ被告ハ其義務ヲ盡スヘキハ至
 當ナルヲ以テ元利金二十圓五十七錢七厘ハ速ニ原告へ返濟スヘシ
 但訴訟入費ハ規則ニ照シ被告於テ負擔スヘキ事

第六號

貸金催促ノ件 明治十五年二月廿八日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣上総國上植生郡
坂本村百二十一番地平民手
島松五郎代兼同國同郡千田
村八十八番地平民

岡田安太郎

被告同縣同國同郡坂本村百

十五番地平民壽作長男渡邊

要藏代人同縣下総國千葉郡

寒川村百二十三番地寄留同

縣士族

石田金治

貸金催促ノ詞訟審理ヲ遂ケ判決スルノ左ノ如シ
被告於テハ本訴ノ金員ヲ借受タル覺ヘ無ノミナラス原告携帶セシ甲
號証ヲ附與シタルノ無之今回該証書ヲ一見スルニ金二十圓明治十三
年一月廿五日借用トアリ請人田中市太郎ト記載シ被告名下ニ押印有
之モ其頃戸主ニ非スシテ印影等ハ所持セシノ無之既ニ當度訴訟ニ及
ハレ初メテ印彫彫刻セシモノニシテ該証書ニ對シ毫モ返金ヲ爲ス謂
レ無之旨申立タリ依テ証人田中市太郎ヲ引合トシテ審問スルニ該証
書ハ証人ニ相立テ被告渡邊要藏カ借受タル金山ニシテ同人カ實印ヲ
押捺セシニ相違ナキ旨ヲ陳述スルモ被告ハ戸主ニ非サルカ故ニ印判
ノ眞偽ヲ公認スヘキ他ニ端緒ノ視ルヘキモノ無之依テ原告ハ本訴ノ
被告ヘ對シ貸金催促ヲ請求スルモ採用相成難キ儀ト心得ヘシ
但訴訟入費ハ規則ニ照シ原告於テ負擔スヘキ事

第七號

貸家取戻ノ件 明治十五年二月廿八日言渡

裁判言渡書

千葉縣下総國印旛郡直彌村

十一番地平民

原告 秋元 半右衛門

同縣同國同郡同村十一番地

平民

被告 秋元 半平

貸家取戻シノ詞訟審理ヲ遂ケ判決スルノ如シ

原告於テ本訴ノ請求ヲ爲ス原因タルヤ被告秋元半平ノ實母ナリハ原

告實父亡 安政四年 四月病死 半右衛門ノ妹ニテ天保年間ノ頃ナリハ上総國武射

郡木原村半藏ノ妻トナリ然ルニ同人ハ該村ニテ生活相立チ難キ故ニ
 弘化三年三月ノ頃半藏及ヒ妻子俱々原告亡父半右衛門方へ送籍シ暫
 時厄介ノ身トナリシカ其後半右衛門ガ邸内ニ從來建設シタル別家
 四間三尺奥一棟有之依テ該家ヲ被告半藏へ貸與シ住居致サセ其際口
 約ニハ同人カ他へ住家建設スルニ至レハ何時ニテモ明渡シ且家税ト
 シテ一ヶ月ニ付金五十錢宛原告へ相渡へキ筈ナル由ハ亡父半右衛門
 存命中遺言ニテ承知致シ故ニ引續キ明治十四年十二月マテ家税ヲ受
 取リタルニ明治十五年一月分ニ至リ其税金差出シ方ヲ被告半平於テ
 差拒ニ豈圖シ該家ハ弘化年度亡父半右衛門ヨリ讓リ受タル杯主張シ半
 平ハ嚮キニ半藏ノ相續人トナリ該家ニハ隱居半藏及ヒナミテ住居致
 サセ剩サハ半平ハ同村八番地へ家屋ヲ建設シタリ兩家屋ヲ擔當ナシ
 フルカ故ニ亡父半右衛門遺言ニ基キ速ニ貸家ヲ明渡スハ至當ナルヲ

以テ再應督促スルモ更ニ謂レナキ旨ヲ主唱シ明渡ヲ拒絕スルモ既ニ
弘化年度ヨリ家税ヲ受取タルヲ以テ原告ガ所有ノ家屋ナルヲ明瞭ニ
リ尤該家ニ属スル地所ハ嘉永六年三月亡父半右衛門ヨリ半平へ譲リ
渡シタル証左被告カ提供爲スモ是レ以テ前ニ陳ル如ク轉住ノ節ハ差
戻スヘキ等ニ有之依テ今回ハ該貸家ヲ速ニ取戻ノ請求ヲ爲ス旨申立
タリ被告於テハ原告請求スル建家ヲ貸與セシナリ迎テ二片ノ証左モ
無之取戻シテ主張スルモ決シテ然ラス抑モ被告實母ナミハ原告亡父
半右衛門ノ妹ニシテ同家ニ出生シ天保年度上総國武射郡本原村半藏
方へ嫁シ其後半平出生スルモ該村ニテ半藏ハ生活相立難キヲ以テ親
子俱々弘化三年三月ノ頃實家半右衛門方へ送籍ヲ爲シ同家ニ厄介ト
ナリ后チ秋元半右衛門ノ分家トナリ同人邸内ニ豫テ建設有之家屋
四間三尺奥一棟ヲ半右衛門ヨリ譲リ受ケ住居罷在當時ヨリ三十余年
行四間三尺

ノ久シキモ總テ該家ノ修繕ヲ加ヘ且戸數割其他諸税モ悉皆被告ニテ
擔當シ戸毎ニ掲載スル標札等モ被告半平名前ニ有之該家ハ當今ニ至
ル迄父半藏及ヒ母ナミ住居シ半平ハ同村ハ番地へ別居罷在モ決テ該
家ハ原告ヨリ借受家税等ヲ拂タルヲ毫モ無之又該建家ニ属スル地所
ハ既ニ嘉永六年三月更ニ原告亡父半右衛門ヨリ讓受タルヲハ被告提
供スル乙第一號証書如クニ有之旁々以テ該家ヲ原告カ取戻ノ請求ニ
ハ應シ難シ旨開陳ス依テ原告ハ該家ヲ貸與シ家税ヲ受領シタリト陳
述スルモ原被告ノ間ニ証憑ノ視ルヘキモノナク唯亡父ノ遺言ヲ傳聞
シタルマテニテ彼我先代ノ口約ニ止ル故是レ以テ信認シ難シ其實況
ハ既ニ被告該家ニ住居スルヲ殆ノト三十有余年ノ久シキニ原告ハ毫
モ該家ノ修繕ヲ加ヘタルヲナシ殊ニ被告提供スル乙第一號証該家ニ
属スル地盤タルヲ嘉永六年三月原告亡父半右衛門カ被告半平へ讓

與シタリトアリ又戸毎ニ掲載スル標札モ戸籍改正即チ明治五年ノ際ヨリ被告名前ナルコトハ村吏ヨリ呈供スル保証書ニ依テ明瞭ナリ然ル上ハ該建家ハ被告へ原告先代半右衛門ヨリ讓與シ所有權ハ被告ニアリト認定ス

前条ノ理由ナルヲ以原告カ貸家取戻ノ請求ハ相立サル儀ナ心待ヘシ但訴訟入費ハ規則ニ照シ原告於テ負擔スヘキ事

八日市場治安裁判所判文

第十號

質流地返地約定履行ノ件明治十五年二月廿二日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣下総國香取郡
津ノ宮村百番地平民四郎
右衛門亡相續人多田利助
代人同村二百五十四番地
平民
宮本庄兵衛
被告右同村百六十番地平民

多田重郎兵衛

質流地返地約定履行ノ訴訟始審判決ヲ爲ス左ノ如シ
 原告於テ論地ハ被告へ質流地ニ相渡シタルモ親類ノ間柄ナルヲ以テ
 年數相立候テモ可相返約定ヲ爲シ甲第一號証ヲ取領セシモノニテ被
 告於テ印影相違ノ旨申立ルモ甲第二號証モ有之印影相違セサル等其
 他縷々陳述スト雖モ被告ハ否ラスト云ヒ原告於テ甲第一號証ハ千葉
 縣佐原警察署へ告訴及ハレ同署へ領置セラル、ニ付甲第二號証ノ印
 影鑑定ヲ請願スルニ付元東京裁判所へ依頼シ東京印判職工月番行事
 海老原喜兵衛外二人ニ鑑定セシムルニ同印ト鑑定シ又甲第一二號ト
 モ當地即チ八日市場村印判職工大川最平外二人ニ命シ鑑定セシムル
 ニ初度ハ相違ト云ヒ再度ハ同印ト鑑定セリ而シテ原告カ相違ナシト云
 フ被告カ提供スル証書中萬延元申年六月付ノ証書ヲ見ルニ三ヶ年季

質地ノ証書ニシテ甲第一二號証ハ萬延元申年七月ナレハ何ソ如北返
 証書ヲ差出スヘキ筈アランヤ又証書ノ印影ト人別帳及ヒ被告カ差
 出ス印鑑ト照査スルニ相違シ且甲第一號証ハ千葉輕罪裁判所豫審終
 結ノ言渡書ヲ見ルニ偽印ト認ムルトアリ右言渡書ヲ以テ何レノ手續
 ヲ以テ受取タルヤト尋問スルニ何レノ手續ニ因テ受取リタルカ不知
 トモ先代ヨリ讓ラレタリト陳述セリ夫レ因之推考スルニ甲第一二號
 証ハ真正ニ成立タルモノトハ難認
 右之理由ナルヲ以テ原告請求不相立ニ付訴訟入費ヲ成規ノ通原告
 リ辨償スヘシ
 第十一號

地所讓受約定履行ノ件 明治十五年二月
 十三日言渡ス
 裁判言渡書

原告千葉縣上総國山邊郡

田中荒生村二十九番地平

民田八郎兵衛相續人當

時同郡雨坪村寄留

田中吉

被告同縣同國同郡田中荒

生村三十一番地平民田中

勘左衛門相續人

田中兼藏

地所讓受約定履行ノ訴訟始審判決ヲ爲ス左ノ如シ

被告於テ原告請求スル地所ハ家作ヲ爲ス節ハ返戻スヘキ契約ヲ爲シ

即チ甲第一號証ヲ附與セシニ明治十三年十二月申該証書ノ履行ヲ勸

解出願スルモ家作ヲ致ス心底ニ無之モノト思慮シ明治十三年十二月

十八日原告代人小網紋右衛門ト明治十四年四月十五日迄ニ家作ヲ爲

スルハ論地ヲ讓渡スコトニ契約シ即チ乙第一號証ヲ受取リシニ原告

於テ金員差支タルヨリ明治十三年十二月二十五日迄勸解延期ヲ願ヒ

タルニ其當日モ亦金員持參セサルニ付明治十三年十二月廿六日午前

第十一時迄ニ金員被告ヘ差出スルハ地所讓渡スコトニ更ニ契約ヲ爲

シ甲乙第二號証ヲ交換シ濟口届書ヲ奉呈歸村セリ然ルニ其期限金員

ヲ持參セズ明治十四年十二月廿六日午後四時頃原告自宅ニ來リ兩三

日ノ猶豫ヲ乞フモ之ヲ肯セサルニ絶テ掛合モ無之是則原告ノ違約ナ

ルニ付今更要メニ難應ト云フト雖モ原告ハ甲第二號約定証ニ基キ明

治十三年十二月二十六日午前第八時頃金員持參セシニ被告於テ甲第

一號証ヲ携帶セサルニ付金員ノニ難受取ト云フニ依リ兩三日間猶豫

百八

ヲ乞ヒ而ノ金員証書等ヲ持參セシニ被告於テ期日經過スルトテ肯セ
サルニ付周旋人ヲ以テ示談スルニ結局被告承諾セサルニ因リ起訴セ
シ旨陳述シ而ノ本案利益ノ何レニ在ルカヲ考索スルニ專ラ原告ニ利
益アリ被告ニ利益アラサルヲ以テ如何ナル命策ヲ爲スモ其期限ヲ誤
マリ利益アル權利ヲ失フコトアラシヤ又不利ナル者ハ辞柄ヲ構ヘ其
義務ヲ免レントスルヤ之レ通常人情ノ免カレサル所ナリ由之其實
ヲ推測スルニ原告云フ如シ金員ヲ持參セシニ甲第一號証ヲ携帶セ
ルモノト認メサルヲ得ス否亦利益アル者モ強テ義務ノ執行ヲ爲サシ
タノカ爲メ虚言ヲ構ヘル者アレハ獨リ原告ノ陳言而已信認スルコト
ヲ得サルモノトシテ論セシニ甲第二號証ハ執行期限ノ急速ナルモノ
ニシテ甲第一號証ハ執行ノ期限ナク家作ヲ爲スヲ以テ期限トセリ夫
レ如此原告カ便利ナル契約アルアレハ假令被告カ云フ如シ金員モ持

參セス猶豫ヲ乞フタリトスルモ瞬時モ猶豫ヲ爲スコト能ハサル商業
ノ如キモノニアラス甲第二號証ハ甲第一號証ノ素志ニ反對スル契約
ナレバ今ヤ原告カ陳述スル如キ苛酷ノ答辨ヲ爲シタルモノニアラス
シテ原告カ請求ヲ許諾セシモノト認メサル可カラス
右之理由ナルヲ以テ被告申分不相立ニ付原告請求ノ通履行可致事
但訴訟入費ハ被告ヨリ成規ノ通辨償スヘシ
第十二號

預ケ地曳綱取戻ノ件 明治十五年二月十六日言渡ス
裁判言渡書

原告千葉縣下総國匝瑳郡
木戸村二百八十番地平民
海保 佐五右衛門

被告右同村百五番地平民

實川龜吉

預ケ地曳綱取戻ノ訴訟始審判決ヲ爲ス左ノ如シ
 被告於テ原告請求スル地曳綱預リタルニ相違無之モ損料トシテ一ケ
 月ニ金六十六錢六厘宛ニテ明治十四年十一月マテ十四ヶ月分金九圓
 三十三錢七厘相渡シ有之地曳營業中ハ催促セサル約定ニ付難引渡旨
 答辨スト雖モ原告ハ否ラスト陳述シ証書ヲ見ルニ本年十月廿日迄ニ
 云々トアレハ被告於テ催促セサルトノ証憑ヲ提供セサル限リハ損料
 テ相渡シタルトテ之ヲ營業中貸置ク契約ナリトハ難認
 右之理由ナルヲ以テ被告申分不相立ニ付原告請求ノ通地引綱ヲ速ニ
 引渡シ訴訟入費ヲ成規ノ通辦償スヘシ
 第十三號

貸金催促ノ件明治十五年二月二十五日

裁判言渡書

原告千葉縣上総國武射郡
 水深村一番地平民古谷吉
 左衛門代人同郡同村二十
 六番地士族

村松安右衛門

被告同縣同國同郡五反田

村八十番地平民

花澤貞三郎

貸金催促ノ訴訟被告於テ原告請求スル金額ハ五ヶ年賦割濟ニ致度旨
 答辨スト雖モ原告之ヲ肯セサルニ付原告請求スル元利金三十三圓七

十二錢五厘身代限ヲ以テ濟方可致事
但訴訟入費ハ成規ノ通被告ヨリ辨償スヘシ
第十四號

小作米催促ノ件 明治十五年二月二十八日言渡ス

裁判言渡書

原告千葉縣下総國香取郡八重穗村八番地平民高橋清左衛門代人同郡關戸村四十番地平民

菅谷半兵衛

被告同縣同國同郡八重穗村十番地平民與兵衛相續人

相馬 禎 藏

小作米催促ノ詞訟原告請求スル明治十二年分小作殘米一斗五升ハ被告辨償ス可シト申供スルニ付該米ニ對シテ判決ヲ與ヘズ
明治十三年同十四年小作合米五石一斗ハ原告へ渡ス可キモノニ無之旨被告ノ答辨ニ依リ其理由ヲ案スルニ原告ヨリ提供スル小作証書中屋敷地三畝六步下畑二畝二十五步附米六斗ノ地ハ明治十三年七月二十六日當被告ヨリ當原告ヲ被告トシ質地受戻シ出訴ニ及ヒ今仍ホ當應審中タリ茲スレハ裁判確定ノ上ニ非レハ未タ原被就レノ處有ニ歸スル乎ヲ知ルニ由ナシ其處有ヲ知ル能ハサル地ヨリ生スル益利ヲ請求スルハ失當ノ請求ナリトス何トナレハ未タ請求ノ權利ヲ生セサレハナリ
前小作証中下田九畝十二步外三筆ノ地ハ原告ニ於テ終審裁判々決定

ハ原告ノ處有ト心得タル旨申供スレ共抑該地ハ原告ノ自供スル如ク
 明治六年十一月中被告父與兵衛ヨリ原告へ賣渡シ明治八年一月中金
 圓持參ノ節ハ何時ニテモ該地可返還旨ノ返リ証書ヲ被告へ受取り尙
 其後明治十二年十一月中被告ヨリ金圓持參返地ヲ求ムルニ當リ原告
 ハ異議ヲ唱へ返地ナサ、ルヨリ終ニ始審終審ノ兩判ヲ仰キ結局原告
 ハ失敗ニ歸シナカラ尙終審裁判宣告迄ハ原告ノ處有ナリト云フト雖
 此前条明治十二年十一月中被告ヨリ返地ノ催促ヲ受タル節原告ニ於
 テ無異議返地ヲ爲サハ那ニ因テ明治十三十四兩年ノ小作米ヲ生スル
 ノ理アランヤ由是之レヲ觀レハ原告ノ請求ハ尤モ不當ノ請求ナリト
 ス

判決

原告ノ要求不相立

訴訟入費ハ原告ヨリ辨償ス可シ
 第十五號

端物買附頼金取戻ノ件 明治十五年二月二十八日言渡

裁判言渡書

原告千葉縣下総國匝差郡
 尾垂惣領村三十二番地平
 民伊藤德太郎父隱居
 伊藤 伊之助
 被告同縣上総國武射郡松
 ケ谷村廿三番地平民田村
 忠吉代人同郡下横地村平
 民

小川彌一右衛門

端物買附頼金取戻ノ詞訟裁判スル左ノ如シ
 証據ヲ案スルニ甲第二號証ハ被告ニ於テ原告へ相渡シタルニ相違ナ
 キモ右ハ原告ノ問合ニ付相場ヲ示シタル迄ニテ端物買入レ方ノ依頼
 ニ應シ其買入レ代金トシテ四十七圓受取タル儀無之ト申供スレ共右
 甲第二號証ハ磯屋彦助宛ニテ其文中ニ端物ノ員數ト其代價ヲ記載シ
 右ノ通御座候間御入張可下被候尤モ此狀持參ニテ御出張可被下候也
 尙々申上候荷物ノ儀ハ便馬ニテ御届可申候也トアリ夫レ被告答辨ノ
 如ク原告ノ問合ニ應シ其相場ヲ示シタル迄ノ書付ヲ磯屋彦助宛ニ記
 載シ加是文言ヲ書スルヲ用井ンヤ被告或ハ云フ東京ニ於テ被告ヨリ
 高橋小平次へ田作り代金貸渡シ有之ヲ原告ニテ辨償ス可キ約束ヲ爲
 シ内金四十七圓其外受取シモ仍ホ不足金辨償ノ爲メ原告處有ノ田作

リ百俵程ヲ原告ノ申ニ任セ該品一見ヲモ不致右凡百俵ヲ賣却シ右不
 足辨償金ヲ受取リ尙ホ其過金ヲ以テ端物買入方ノ頼談ニ被及其需ニ
 應シ甲第二號証ヲ原告へ附與シタリト然ルニ右田作りハ不正ノ品ニ
 テ干今右不足辨金ヲモ不受取ト夫レ商法上如此迂濶ノ處爲アラシヤ
 何トナレハ未タ其物品ヲモ不覽且其俵數モ不儘モノヲ以テ現ニ見且
 ツ改メタルモノ、如ク代價ヲ豫算シ其餘金ヲ以テ端物ヲ買入レ之レ
 ヲ彦助方へ送附ヲ約スルノ理アル事無キノミナラズ原告ハ田作り代
 金ニ毫モ關係ナシト云ヒ引合人高橋小平次モ同様ノ陳述ヲ爲シ廣田
 源吉モ端物代トシテ金四十七圓ヲ目前ニ於テ原告ヨリ被告へ相渡セ
 シト云ヒ被告ノ言詞ニ一モ依ル可キノ証ナク信ス可キノ蹟ナシ被告
 又云フ明治十三年十二月廿四日朝登戸村木村屋與兵衛方出發其日夕
 刻着京セリ然ルヲ原告ニテ同日金四十七圓ヲ東京芳町牛肉店ニ於テ

晝飯ノ節可受取理ナシト果シテ然ルカ原告ハ此言ニ對シ應分ノ答ヲ
 爲シ番外一二號証ヲ呈出セリ其一號証ニ曰ク千葉縣下武射郡松ヶ谷
 村二十三番地田村忠吉右ノ者十三年十二月廿二日夜止宿仕候處相違
 無之候也行徳新田伊勢屋常之助其二號証ニ曰ク前同斷田村忠吉右人
 義客年十二月二十三日夜ヨリ本年一月二日夜迄宿泊罷在候ニ無相違
 候事十四年四月五日東京府下日本橋區堀江町四丁目四番地林太兵衛
 トアリ左スレハ被告カ明治十三年十二月二十四日朝登戸村木村與兵
 衛方出發セシト云フハ亦空言ノミ然ルニ原告ヨリ該一二號証ヲ呈ス
 ルヲ觀テ俄ニ日限ノ訂正ヲ乞ヘトモ尙右一二號証ニ照セハ日限ノ相
 違セシノミナラズ被告ノ詞ニ於テ是亦更ニ証跡ナシ
 前条ノ如ク被告ノ答辨ハ一モ信據ノ証ナキニ依リ惣テ採用スルニ由
 ナシ因テ原告請求ノ金額四十七圓ハ速ニ返還ス可シ

但訴訟入費ハ成規ノ如ク被告ノ負擔タル可シ

木更津始審裁判所判文

第一號

質地代金催促ノ件 明治十五年一月三十一日

裁判言渡書

原告千葉縣上総國周准郡泉村四十一番地平民

茅野金八郎

被告同縣同國望陀郡吾妻村二十二番地高橋八平

方寄留平民

野口長四郎

質地代金催促ノ訴訟始審ノ裁判ヲナス左ノ如シ

被告ニ於テ本訴第二號証ノ如ク所有ノ畠地地券二枚ヲ預ケ明治十一年三月ヨリ明治十四年三月迄三ヶ年期ニ相定メ第一號証ノ通り質地ニ差入レ金五十五圓借受タルニ相違ナキモ該地ノ小作米ヲ一ヶ年一

石二斗宛ノ口約ヲナシ置タルニ付追々利米六石ヲ交付シタル價額ヲ平均計算スルニ過當ノ利分ニシテ一ヶ年四割ニモ相成リ斯ク不當ナル利子ハ拂入レ難キヲ以テ過利米二石四斗ノ見積金二十四圓ヲ扣除シ殘額三十一圓ヲ返附スルニ非ラサレハ原告ノ要求ニ難應旨抵拒スト雖モ果シテ右利米ヲ一石二斗宛ニ約シタル証憑ナキ而已ナラス當度原告カ利米ヲ請求セサル上ハ全ク別途ノ爭詞ニ該ルヲ以テ本件ニ對シ之カ計算ヲ要スルノ限ニアラサルニ依リ原告請求ノ通り該質地金五十五圓ハ即チ第一號証ノ契約ニ基キ速ニ還償スヘシ

但訴訟入費ハ被告ヨリ償却スヘシ

第二號 貸金催促ノ件 明治十五年一月三十一日

裁判言渡書

原告千葉縣上総國周准郡泉村四十一番地平民

被告同縣同國望陀郡吾妻村二十二番地高橋八
平方寄留平民

野口長四郎

貸金催促ノ訴訟始審ノ裁判ヲナス左ノ如シ
被告ニ於テ明治十二年七月一日附及ヒ明治十三年十二月廿二日附大
ル第一二號証ヲ交付シ二口ニテ元金十七圓借受ケタルニ相違ナキモ
明治十五年本衙第六號原告ヨリ係ル質地代金請求ノ訴件ニ對シ差引
計算スヘキ金員之ノアルニ付該判決ヲ受ケタル上ニアラサレハ本訴
ノ需ニ難應旨抵拒スト雖本件ハ全ク別途ノ貸借ニシテ右第六號ノ
訴件ニ關シ毫モ差引ヲ要スルノ証憑ナキヲ以テ其抗辨ハ採用セス依
テ原告請求ノ通り契約ノ利子ヲ添加シ速ニ完済スヘシ

但訴訟入費ハ被告ヨリ償却スヘシ

第三號

小作金儲備ノ件 明治十五年
一月三十日

親對書發書

原告千葉縣上總國周淮郡鼻村四十一番地平民

茅野金八郎

被告同縣同國同郡同村八番地平民當時同縣同

國望陀郡吾妻村二十二番地高橋

野口長四郎

小作金儲備ノ訴訟始審判決ヲ爲ス左ノ如シ
被告ニ於テ本訴ノ小作金十一口ハ濠洲ニシヨ相違ナキモ明治十五年
本衙第六號質地代金ノ訴件ニ付原告ヨリ受取ルヘキ金二十四口之ノ

アルニ依リ其差引計算ヲ爲サ、レハ原告ノ訟求ニ難應旨抗辨スレモ
本件ハ全ク別途ノ契約ニ係リ右第六號ノ訴件ニ關シ毫モ差引ヲナ
ヘキ証憑ナキヲ以テ其答辨ハ採用セス依テ原告訟求ノ金額ニ訴訟入
費ヲ加ヘ速ニ完済スヘシ

第四號

質地受戻及地券書換要求ノ件 明治十五年
一月卅一日

裁判言渡書

原告千葉縣上総國望陀郡木更津村六百七十二番
地平民鈴木伊三郎代人同縣同國天羽郡數馬
村二十六番地平民當時同縣同國望陀郡木更
津村四番地寄留

中 後 集 造

被告同縣同國望陀郡木更津村五百十四番地平民

石川吉右衛門

質地受戻及地券書換要求ノ訴訟始審ノ裁判ヲ爲ス左ノ如シ
原告代人ニ於テ本訴甲第一二三四號証ヲ提供シ木更津村字四坊根ノ
田地改正反別九畝廿九歩ヲ明治五年二月ヨリ明治十四年十二月迄十
夕年期ニ定メ金四十圓ニテ質地ニ差入置タルニ習慣ニ倣ヒ地券ハ被
告ノ名義ナルモ期限中ニシテ原告ハ未タ權利ヲ失ハサルニ付今回右
質地金ヲ以テ該地ヲ受戻サントテ要求スト雖モ抑モ甲第一二三號証
ノ性質タル單ニ間接ニ成立チ現今之ヲ保證スルニ止リ一トヨテ當時
ノ原因ヲ認ムヘキ該村役場ノ著明ナル証蹟ニ非ス且ツ甲第四號証モ
亦文政年度ノ帳簿ニ附箋シアル迄ニシテ果シテ前顯質地ノ契約ナル
事實ヲ慥ムヘキ原被双方ノ捺印ナキヲ以テ視レハ孰レモ之カ真正質

地タルヲ証明シ得ヘキ効力ヲ有スル証憑トハ確認セズ依テ當度原告訴願ノ趣旨ハ渾テ相立タス

但訴訟入費ハ成規ノ通原告ヨリ償却スヘシ

第五號

雇給金取戻ノ件 明治十五年一月卅一日

裁判言渡書

原告千葉縣上総國望陀郡牛袋村四十五番地

平民嶋野治郎右衛門代兼同縣同國同郡

同村六番地平民

鈴木 八郎 兵衛

被告同縣同國同郡大谷村五十三番地平民

月 崎 八 ッ

被告同縣同國同郡同村四十六番地平民

月 崎 忠 右 衛 門

雇給金取戻ノ訴訟始審裁判スル左ノ如シ

原告ニ於テ本訴証書ヲ提供シ被告兩名ヘ係リ雇給金殘額ヲ請求スト

雖モ右証書ヲ調査スルニ被告月崎忠右衛門ハ即チ雇本人被告月崎ハ

ッ)カ引受ケ証人ナルニ目今(ハッ)カ所在ヲ原告承認スルヲ以テ視レハ

直ニ(ハッ)ニ係ルハ格別今(ハッ)ト俱ニ相手取ルヘキモノニアラサル

ニ付裁判ニ及ハサルモノトス

但訴訟入費ハ原告ヨリ償却スヘシ

第六號

質地受戻ノ件 明治十五年一月卅一日

裁判言渡

原告千葉縣上総國望陀郡加惠淵村三十三番地
平民川名佐右衛門代人同縣同國周准郡富
津村百八十八番地寄留平民

大河内 義郎
被告同縣同國望陀郡加惠淵村一番地平民岩田
雪次郎代人同縣同國同郡戸崎村三十七番
地平民

小澤園藏

質地受戻ノ訴訟始審ノ裁判ヲナス左ノ如シ
被告代人ニ於テ本訴原告代人カ供出スル甲第二號証寫ノ如ク素ト原
告所有ノ字熊免ノ田地舊合反別二反四畝廿九步ヲ金二十三田ニテ明
治五年壬申一月ヨリ向十ヶ年期ノ約定ヲナシ質地ニ預リタルニ相違

ナク而シテ右甲第二號本証ハ方今其所藏ヲ忘却シ發見シ得サレ且當
時地所賣買ノ應禁ナルヲ以テ原被告双方熟議ヲ遂ケ更ニ甲一號証寫即
チ乙號本証明文ノ通り永代買受タルニ依リ固ヨリ其所有權ノ被告ニ
屬セシニ付既ニ地券証ヲ授與セラレタル上ハ決シテ這般ノ要請ニ應
スヘキ義務之レナキ旨陳述スト雖モ該地ハ甲第二號証寫ノ如ク十ヶ
年期ノ質地ニ預リシ段自認スル而已ナラス乙號証ノ文義ヲ查閱スル
ニ(永々御所持)ノ文詞アルモ(十ヶ年ニ賣渡シ)云々トアルヲ視レハ期限
ニ臨ミ當初之カ受戻ヲ豫約セシ主義ヲ含蓄シテ單純ナル賣買ノ手續
ヲ結果セサルヤ明晰ナリ況ヤ該村舊戸長現時ノ組合ナル引合人川島
圓藏ガ事實質地ノ奥印ヲナシタルヲ驗明スルニ於テテヤ由是觀之
頁シ地券ハ被告カ名義ナルニモセヨ右乙號証ヲ以テ該地ヲ買得シタ
ルトノ確証トハ認メ難キニ付原告請求ノ通り即チ質代金二十三圓ヲ

受領シ速ニ返却ス可シ

但訴訟入費ハ被告ヨリ償却スヘシ

第七號

貸金催促ノ件 明治十五年
二月二日

裁判言渡書

原告千葉縣上總國周准郡鎌漣村七十三番地平民

松崎市郎治

被告同縣同國望陀郡吾妻村二十二番地高橋八平

方寄留平民

野口長四郎

貸金催促ノ訴訟始審ノ裁判ヲナス左ノ如シ

被告ニ於テ本訴訟書ノ元利金額ハ淹滞セシニ相違ナキモ爰ニ明治十

四年七月五日附テ以テ明治十五年三月三十日迄日延証書ヲ交附シ置
タルニ付這回ノ要求ニ難應旨抗辨スト雖結果シテ如斯延期ノ約アル
モノト認ムヘキ証憑ナク假ニ之ヲ其約アルモノトスルモ右勸解不調
ノ際即チ明治十四年十二月十七日ニ供出シアル乙號始末書中(入金モ
致候得共殘金ノ義一時調達兼候云々トアルヲ視レハ固ヨリ當時之カ
完済ヲナスヘキヲ認諾セシモノナレハ前陳延期ノ約ヲナスヘキ理
由ナキハ言テ俟サルニ付其申狀ハ不當ナリトス依テ原告請求セル元
利金額ニ訴訟入費ヲ併セ速ニ完済スヘシ

貸金催促ノ件 明治十五年
二月四日

裁判言渡書

原告千葉縣上總國天羽郡大田和村十八番地平民

高橋千代藏
被告同縣同郡櫻井村三十七番地平民

庄司 喜右衛門

貸金催促ノ訴訟短審ノ判決ナラス左ノ如シ

原告ハ明治十四年五月中當初被告カ金談ヲ并諾セシニ付直ニ戸長役
場ノ印鑑ヲ調査シ置タルニ爾后被告カ代理トシテ其長男仙松ナルモ
ノ本証書ヲ調製シ來ルニヨリ提携シタル委任狀ノ印影ト比照シ委任
狀ハ預リ置カサルモ該印形ノ異罷オキテ覺認シテ右仙松ヨリ本証ヲ
受領シ金百九十圓貸與セシニ期限返濟セサルヲ以テ本訴ヲ起セシ處
被告ニ於テ印影ハ相違ナキモ金員借受タルヲナシ殊ニ仙松ハ對シ該
件委任セシ義モ之ヲナキニ付應セサル云々爭訟スルニ依リ之ヲ審究
スルニ本証書ハ被告カ名義ニテ印影ノ實印ナルモ果シテ當時仙松カ

被告ノ代理者タルヲ証スヘキモノナク將タ借主ヲ確認セズ斯ル疎
忽ノ金員授受セシ頓末ニ就キ其事實ヲ按ズルニ原告ノ目的ハ被告ニ
於ラスシテ仙松ニ屬セシモノト看做ササルヲ得ス何トナレハ明治十
四年本衙勸解第三千五百四十九號ノ件ニ付九月五日ノ始末書中ニ(負
債主庄司喜右衛門ナル旨ヲ以テ年齢十八九才ノ若者自分方へ參リ庄
司喜右衛門ナル者ニ付金圓借受度)云々トアリテ又(今般御勸解へ出願
仕候處庄司喜右衛門出頭仕面會致候ニ貸渡候節ノ喜右衛門トハ大ニ
相違致居タレヒ至シ喜右衛門ト心得貸渡候)トアルヲ視ルニ道理上借
主ノ誰タルヲ識別セズシテ貸借ヲ爲ス可ラサルハ論ヲ俟ス良シヤ被
告カ印影ノ實印ナルモ金員授受セシ仙松ハ當今失踪中ニテ被告カ承
諾ニ出テ貸渡シタル証憑ナキヲ以テ原告請求ハ相立タス
但訴訟入費ハ原告ヨリ償却スヘシ

第九號

貸金催促ノ件 明治十五年
二月四日

裁判言渡書

原告千葉縣上総國望陀郡三田村二十四番地平民

伊藤七郎兵衛代人

伊藤源次郎

被告同縣同國同郡横田村七十五番地平民

篠崎松造

貸金催促ノ訴訟始審ノ裁判ヲナス左ノ如シ

原告ニ於テ明治十四年一月六日被告カ至急金圓入用ニ付貸與度旨依
頼アルニ依リ一應謝斷セシモ達テノ懇談ニ應シタルニ被告カ印形所
持セサルニ付被告カ自書セシ証書ヲ信用シ受人ノ調印モ間ニ合ハサ
ルモ即時被告カ田中嘉七ニ代印セシメタルヲ以テ本証ヲ領置シ金一

十圓貸渡シタルニ圖ラサリキ被告ハ該証ニ捺印ナキヲ口實トシ金員
借受ケサルヲ主張スルモ否ラス尤モ借主受人ノ調印ヲ徴セサルハ不
注意ナレモ全ク被告ノ自書ト嘉七カ代印トヲ信認シ之ヲ授受セシ義
ナルヲ以テ本訴ノ要求ニ及ヒタル旨申立ルト雖モ凡ソ金員貸借ヲナ
スヤ抵當ノ有無証人ノ奈何ヲ問ハス第一借主ノ調印ヲ受ケルハ勿論
必ス其契約ヲ確實ナラシムルハ最モ情理ノ然ラシムル民俗ナルニ良
シ証書ハ被告カ自書セシモノニモセヨ被告カ本金ヲ借受ケタルヲ
承認セサル上ハ該貸借ノ結果セシモノニ非ス況ンヤ其確証ナキノミ
ナラス被告カ會テ嘉七ヲ面議セカリシコヲ斷答スルニ於テチヤ是ニ
由テ之ヲ視レハ本証ハ即チ無効ノ屑紙ニシテ之ヲ以テ事實金員貸渡
シタルモノトハ信シ難ク而シテ嘉七カ代印モ亦當時ノ結成ニ非ス
テ則チ後日原告ト嘉七ノ間ニ於テ作爲セシモノト認定ス依テ原告ノ

訟求ハ相立タス

但訴訟入費ハ成規ノ通原告ヨリ償却スヘシ

第十號

貸金催促ノ件 明治十五年
二月七日

裁判言渡書

原告千葉縣上総國天羽郡竹ヶ岡村四百六十五

番地平民鈴木長治郎代兼同縣同國同郡同

村三百九十七番地平民

永井庄左衛門

被告同縣同國同郡同村四百三十九番地平民

鈴木徳左衛門

貸金催促ノ訴訟始審ノ裁判ヲナス左ノ如シ

第一條

原告ニ於テ明治十四年五月中本証金二十圓ハ原告兩名ニテ貸渡タル
ニ付今回訟求スル旨開陳スト雖本証ヲ調査スルニ鈴木長治郎殿ト
アル宛名ノ直下ニ代ノ字ヲ書シ之ニ他ノ紙ヲ貼附シアルニ被告カ認
印ナキ而已ナラス次ニ岡村永井庄左衛門殿ト宛名ヲ列記シタル其墨
色筆蹟ノ異同アルヲ以テ觀レハ原告ノ都合ニ依リ必ス後日擅ニ加筆
セシモノト認定スルニ付原告永井庄左衛門ハ本金督促ヲナスヘキ權
利ナキモノトス

第二條

被告ニ於テ本証金買ハ爰ニ原告鈴木長治郎一名ヨリ借受タルモノニ
テ原告永井庄左衛門ノ兩名ニ對シ借用セシニ非ス何トナレハ該証文
言及ヒ鈴木長治郎宛名迄ハ自書セシモ右宛名ノ下ニ代ノ一字ヲ書シ

他紙ヲ貼附シアルニ自分ノ檢印ナク且ツ永井庄左衛門カ宛名ヲ列記シタル筆蹟ハ自筆ニ非ラサルヲ以テ或ハ原告等カ加墨セシ乎ト思量スルニ付該証ニ對シテハ濟方致シ難キ旨抗辨スレモ右鈴木長治郎一名ヨリ借受タルコトヲ自認スル上ハ長治郎ニ對シ之ヲ拒ムヲ得サルモノトス

第三條

前項ニ判示スル理由ナルニ付本訴要求ノ元利金額ハ原告鈴木長治郎一名ニ對シ被告ヨリ速ニ完済スヘシ

但訴訟入費ハ原被告各自辨タルヘシ

第十一號

干鰯代金滯催促ノ件 明治十五年
二月八日

裁判言渡書

原告千葉縣上総國周准郡中野村六十七番地
平民高橋吉次郎代人同縣同國同郡根本
村平民

小川二郎

被告同縣同國望陀郡不更津村九十番地平民
地曳利三郎代人同縣同國同郡同村平民

宇野善三

干鰯代金滯催促ノ詞訟審理ヲ遂ケ始審ノ裁判ヲ下ス左ノ如シ
原告訴フル要領ハ明治十四年二月二日干鰯二千俵百俵ニ付百九十五圓此代金三千百八十圓ニシテ乙第一號約定ノ如ク被告へ賣渡シ甲第八號ノ如ク明治十四年三月十五日ヨリ四月一日迄ニ千三百四十二俵毎度ニ相渡尤モ該俵ノ内百十四俵ハ別途賣渡シ此代金トモ合計二千

二百七十三圓四十四錢九厘ノ内千九百三十四圓四十二錢六厘請取殘
 金三百三十九圓二錢三厘相滯ヲ以速ニ請求ヲ受ケ度訴出ツ
 被告ハ千鰯二千俵ヲ代金三千百八十圓ニ定メ乙第一號約定証ヲ以買
 受ケ而カシテ別段取引セシ百十四俵トモ合セテ千三百四十二俵毎度
 ニ被告ニ受取タルハ原告供述スル如ク相違ナシト雖モ該俵數ノ内六
 百七十二俵ハ明治十四年二月二日乙第一號証四百八十俵ハ同年三月
 十九日甲第九號証ニ基キ其餘十三俵及ヒ六十俵ハ一圓ニ付二杯三合
 五夕三俵ハ一圓一俵ノ割ニテ買受ケタルヲ以原告ニ立換金四圓十二
 錢五厘差引既ニ原告ニ出金セシ千九百三十四圓四十二錢六厘ニテ全
 ク皆濟ト相成タリ尤モ別途取引セシ百十四俵ノ分四百八十俵ハ甲第
 九號証ニ基キ其他十三俵及六十三俵トモ右ノ割合ニテ賣買セシ約定
 証等ハ之レナク將々六百七十二俵ハ二杯二合四百八十俵ハ二杯二合

六夕ノ相場ニ號外証ヲ以原告代人高橋源平ニ對シ改約セシニ付請求
 ニ應ジ難キ旨抗辨セリ

依テ密按スルニ被告ニ於テ千鰯四百八十俵ハ甲第九號証ニ基キ受取
 タリト供出スルモ同証ハ乙第一號証二千俵ノ外尙ホ二千俵賣買セシ
 約定証ニシテ該証ニ本年二月二日千鰯二千俵賣渡候物品相渡濟ノ上
 此度約定荷物來ル四月二十日限相渡可申云々トアリテ未タ乙第一號
 証二千俵ノ受ケ渡相濟マサル以前ニアレハ四百八十俵ハ甲第九號約
 定ノ物品ニ非ラスシテ乙第一號証ノ取引品ナルハ判然タリ又被告ハ
 乙第十號証ハ原告代人小川二郎カ自書セシヲ以十三俵及六十俵トモ
 一圓ニ付二杯三合五夕ノ賣買ナリトスルモ乙第十號証ハ百六十八俵
 ニシテ俵數ノ符合セサルノミナラス賣買ノ約アルニアラサレハ右証
 ヲ以買受ケノ證據ト認メ難シ又六百七十二俵及四百八十俵ハ號外証

ニテ改約セシト被告由立ルモ右ハ原告代高橋源平殿ト被告自記シテ源平へ差入レタルモノニテ殊ニ源平ハ原告本人ヨリ改約ノ委任ヲ受ケアルヤ否被告之レヲ確知セス果シテ原告ニ於テ右等ノ委任セシ代人ニ非ラスシテ四百八十俵ノ請取証ナキヲ以源平ヲ使ニ差立タリト申供シ仍ホ源平カ手續書ニ據ルモ受取証請求ノ爲メ被告方へ參リタル節被告強テ番外証ヲ相渡タリト陳述スルヲ觀レハ原告ノ肯諾セシモノニ非ラサルハ瞭然タリ又被告ハ乙第十二號証ハ乙第一號証ノ代價ヲ改約シテ低價ニ取引ヲ爲セシ証ナリトスルモ其改約セシ明文アルニ非ラス加之該証記載ノ殘金授受セサルニ因リ原告ノ捺印アルニモアラス又立換金四圓十二錢五厘ハ其立換タル証アラサレハ被告供述ハ總テ相立タサルモノトス

右ノ理由ナルニ依リ原告請求金三百三十九圓二錢三厘ノ内原告カ被

告ヨリ立換ヲ受ケタル金四十錢ヲ引去リ殘金速ニ被告ヨリ出金致スヘク隨テ訴訟入費ハ成規ノ通被告ヨリ償却スヘキ事

第十二號

貸金催促ノ件 明治十五年
二月十日
裁判言渡書

原告千葉縣上総國望陀郡眞里谷村六番地平民
須藤福松代人同縣同國同郡同村十九番地
平民
根本 堪五左衛門

被告同縣同國同郡山本村四十一番地平民
林 彌次右衛門

貸金催促ノ訴訟終尾判決スル左ノ如シ
被告ニ於テ本訴ノ元利金額ハ淹滞セシニ相逢ナキモ目今金融差間フ

ルニヨリ調達中明治十五年二月十七日迄猶豫受度旨申述スト雖原
告カ然諾セサル上ハ之ヲ強請スル能ハサルニ付即チ抵當ノ地所ヲ賣
却シ該代價ヲ以テ速ニ返済スヘシ

但本件ハ貸借ノ別當争議ノ點ヲキテ以テ置ニ終尾判決ヲ下ス訴訟
入費ハ被告ヨリ償却スヘシ

第十三號

貸金催促ノ件 明治十五年
二月十七日

裁判言渡書

原告千葉縣上総國望陀郡矢那村百四十一番地

平民

長谷 三 右衛門

被告同縣同國同郡同村二百三番地平民當時

同郡木更津村五百九十四番地寄留竹内清

右衛門代人同番地平民

多田 勘兵衛

貸金催促ノ訴訟始審ノ裁判ヲナス左ノ如シ

被告代人ニ於テ本訴証書ノ印影ハ被告ノ實印ニ相違ナキモ金員授受
セシト毫モ之レナク該証ハ明治十四年十月六日賭博ノ末飲酒熟醉ノ
折柄他ノ借用証書調製ノ爲メ棚倉角次郎ニ實印相渡シタル際作爲セ
ラレタルモノト思量スルニ付本証ニ對シ盡スヘキ義務ナキ旨抗辨ス
ト雖モ唯口頭ノ陳述ニ止リ果シテ他人ノ詐爲ニ係ルモノト慥ムヘキ
証憑ナク印影ノ被告カ實印ニ相違ナキヲ自認スル上ハ固ヨリ本訴
ノ義務ヲ免カレ能ハサルモノトス依テ原告請求ノ金額ニ訴訟入費ヲ
加ヘ速ニ完済スヘシ

第十四號

貸金催促ノ件 明治十五年
二月十七日

裁判言渡書

原告千葉縣上総國望陀郡矢那村百廿番地平民

長谷川 兼吉

原告同縣同國同郡同村百六十九番地平民棚倉

市平代人同縣同國天羽郡佐貫町三十二番

地士族當今同國望陀郡木更津村六百二十

五番地寄留

伊藤 米藏

被告同縣同國望陀郡矢那村二百三番地平民當時

同國同郡木更津村五百九十四番地寄留竹内

清右衛門代人妻

竹内ウヲ

貸金催促ノ訴訟始審ノ裁判ヲ爲ス左ノ如シ
被告代人ニ於テ本訴証書ノ印影ハ被告ノ實印ニ相違ナキモ金員授受
セシト毫モ之レナシ該証ハ明治十四年十月六日賭博ノ末飲酒熟醉ノ
折柄他ノ借用証書調製ノ爲メ棚倉角次郎ニ實印相渡シタル際作爲セ
ラレシモノト思料スルヲ以テ本証ニ對シ盡スヘキ義務ナキ旨抗辨ス
ト雖モ唯被告カ口述ニ止リ果シテ他人ニ詐爲セラレシモノト認ムヘ
キ証憑ナシ本証印影ノ被告カ實印ニ相違ナキヲ自認スル上ハ固ヨ
リ本訴ノ義務ヲ免カル能ハサルモノトス依テ原告請求ノ金額ニ訴訟
入費ヲ加ヘ速ニ完済スヘシ

第十五號 貸金催促ノ件 明治十五年
二月十七日

裁判言渡書

原告千葉縣上総國望陀郡木更津村五百六十四
番地平民

強崎平造

被告同縣同國周准郡鹿野山宿一番地寄留士族

宮崎竹三郎

被告同縣同國同郡同宿五十二番地平民

鎌田秀治郎

貸金催促ノ訴訟始審ノ裁判ヲナス左ノ如シ

被告鎌田秀治郎ニ於テ本証金百圓ハ明治十三年一月七日相被告宮崎
竹三郎ト連借シ今回原告カ請求セル元利殘金百二十六圓六十六錢六
厘ハ淹滞セシニ相違キモ目今右竹三郎カ金策ノ爲メ東京表へ出府

中ナルヲ以テ歸宅ノ上供ニ義務ヲ果スニ非ラスノハ一己ニ辨償難致
ニ付呼寄中明治十五年二月廿二日迄返金猶豫受度旨申立ルト雖モ原
告カ該猶豫ヲ肯諾セサル上ハ之ヲ究請スルヲ得サルモノニ依リ淹滞
セル元利金額ハ即チ本証契約ノ趣旨ニ基キ連借人宮崎竹三郎ニ拘ラ
ス原告請求ノ通り被告鎌田秀治郎一名ニテ負擔シ速ニ完済ヲ遂ク
シ
但訴訟入費ハ被告ヨリ償却スヘシ

第十六號

貸金催促ノ件 明治十五年
二月廿日

裁判言渡書

原告千葉縣上総國望陀郡長須賀村四十五番地

平民小籠藤兵衛代人同郡木更津村四十八

番地寄留平民

鈴木 久右衛門

被告同縣同國同郡江川村六十二番地平民

田中 茂左衛門

貸金催促ノ訴訟始審ノ裁判ヲナス左ノ如シ

被告ニ於テ明治十四年六月七日原告カ供出スル甲號証ヲ調製シ地所
抵當ニテ公証ヲ經金二百圓原告ヨリ借受吳レルヲ証人近藤龜松ヘ
委任シタルニ相違ナキヲ以テ其際金三十圓ハ龜松ヨリ收受セシモ殘
金ハ未ダ受取ラサルニ付方今乙號証ヲ以テ龜松ヘ係リ當木更津治安
裁判所第五百三十一號ノ件ニテ勸解出願中ナルニヨリ該殘金百七十
圓ヲ龜松ヨリ領収シタル上ニアラサレハ本訴原告ノ要求ニ難應旨答
陳スト雖モ右乙號証書ハ單ニ被告ト近藤龜松ノ間ニ於テ成立タルモ

ノナレハ原告ヘ對シ効力アルモノニ非ス況ヤ龜松ヲシテ本金授受ノ
權限ヲ委任セシメテ自陳スル上ハ設ヒ龜松カ殘金ヲ費用セルモノニ
モセヨ甲號証ノ義務ヲ通ル、能ハサルモノトス依テ原告請求ノ元利
金額ハ被告ヨリ速ニ拂渡ス可シ

但訴訟入費ハ被告ヨリ償却スヘシ

第十七號

堰修繕費割賦金請求ノ件 明治十五年
二月廿一日

裁判言渡書

原告千葉縣上総國望陀郡西原村外三ヶ村惣代

兼同縣同國同郡賀惠淵村二十四番地平民

川名 常二郎

同縣同國同郡西原村外三ヶ村惣代兼同縣同

國同郡同村二十五番地平民

小原太郎右衛門

被告同縣同國同郡三田村惣代兼同村三十一番

地平民

片倉新兵衛

同同縣同國同郡末吉村惣代兼同村二十一番地

平民

堀傳平

同同縣同國同郡俵田村惣代兼同村十五番地

平民

安藤保太郎

堰修繕費割賦金請求ノ訴審理ヲ遂ル處

原告總代川名常治郎小原太郎右衛門ニ於テハ本訴請求スル金額ハ原
被聯合七ヶ村ノ養水堰ナルヲ堤山堰破壊ニ因リ明治十三年中修繕ヲ
加ヘタル出費ニシテ其支出官費ヲ除ク外ハ聯合七ヶ村ノ舊高ニ賦課
スル慣行ナルニ付甲第一號課出取調書ノ如ク被告三ヶ村ノ出金及人
足出不足トモ合金百十二圓三十九錢七厘五毛ナルヲ以速ニ請求ヲ受
ケ度訴出

被告總代ニ於テハ該堰普請所ハ從前藩費ニ之レアル處明治七年中破
壞ニ際シ官費ノ外人夫等ノ費用割賦法ハ人民協議ニ因リ其度々設ク
ル筈ニテ決シテ定則ナク然ルニ明治八九兩年堤山堰修繕費原告村ニ
於テ自儘賦課シタルヨリ葛藤ヲ生シ爾後原告各村ヨリ被告三ヶ村ニ
八夫三百人助合ノ約定ニテ一時出費シ其後明治十年度ハ乙第三號ノ
通賦課法ヲ設ケ出金シタリ然ル處既ニ地租改正相成タルニ付改正反

別ヲ以水引田地而已ニ賦課スル至當ナルモ明治十二年該堰修繕ノ際迄ハ民費割賦方法確定致サス工事着手ニ差間ルヲ以原被各村協議ノ上地位等級地價確定ノ上適當ノ賦課方法相設ケ割賦スヘキ口約ニテ石高ト水引反別ト半額ツ、ニ賦課スル豫算ヲ以各村共出金及出夫致シ工事落成相成タリ然ルニ原告村ハ口約ノミニテ石高ト水引反別ニ課スルノ約定書ナキヲ以擅ニ賦課法ヲ設ケタルモノナルニ付請求ニ應シ難キ旨答辨ス

依テ始審ノ裁判ヲ爲ス左ノ如シ

被告ハ梶山堰修繕費ハ従前ヨリ官費ヲ除ク外人夫等ハ其度々各村協議スル慣例ニシテ甲第六號乃至十一號ハ原告擅ニ取捨タル張簿ナリト申供スルモ其証據ヲ擧ゲサルノミナラス該帳簿ハ原告私ニ取捨タルモノト認メ難ク又被告ハ乙第六號ヲ以テ水引反別ニ賦課スル証ナ

リトスルモ該証ハ明治九年中原告西原村一ヶ村ヨリ大區扱所へ宛テタルモノニテ各村協議決定シタルモノト認ムルヲ得ス又明治十二年出費セシ金員出夫ハ舊高ト水引反別トニ割賦セシ証トスルモ如何セシ現ニ出費セシ金高人夫トモ共高反別ニ付合セサルヲ然リ而シテ甲第十三號ニハ(兩堰用水ノ儀ハ従前ヨリ水引場區別相立居候得共其費用支出ニ至リ往古ヨリ水引場ニ不拘村々舊惣高ヲ以賦課致來云々トアリ又甲第十九號ニ(大上梶山兩堰従前官費御普請所ニテ諸人足並ニ雜費等ハ總テ村々舊惣高ヲ以負荷仕來云々トアリテ甲第六號乃至十一號証ニモ従前ヨリ舊高ニ賦課スル慣例ナルハ判然タリ將テ甲第九號ノ如キハ被告連印ノ証ニシテ従前ヨリ舊高ニ賦課スル又明晰ニシテ地價確定ノ上適宜ノ賦課方法ヲ設ケ割賦スヘキ口約アリト被告供述スト雖モ原告ハ之レヲ知ラスト云ヒ其証憑ナキヲ以被告由立ハ相

立タス斯クノ如クナレハ向來ノ賦課法更ニ確定スル間ハ從前ノ賦課
 法ニ據ラサルヲ得サルモシト大最原告ハ甲第三號管廳ノ指令ニ被告
 村ニ於テ遵奉スヘキモノナリト供スルモ乙第五號ニ被告村協議ニ應
 ジサル場合ニ於テ本縣處分ノ限外トアレハ右指令ハ決シテ効力ヲ有
 スヘキモノニ非ラス其餘原被共証據書類又ハ上申書等呈供スルモ本
 訴ノ要領ニ非ラサルヲ以之レカ裁判ヲ下サズ
 右ノ理由ナルニ依リ原告請求ノ金額ハ速ニ被告ヨリ出金致スヘキ事
 但訴訟入費ハ成規ノ通被告ヨリ償却スヘシ

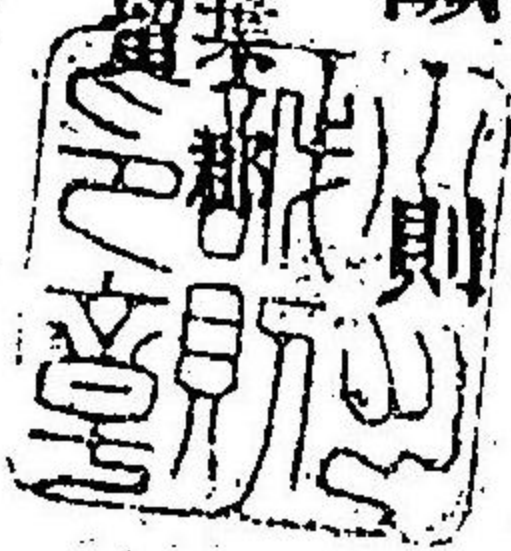
明治十五年二月十六日御届
 明治十五年五月十五日出版

静岡縣士族

編輯兼出版人

小出誠

下総國千葉縣
 登戸村寄留



發兌本局千葉本町

賣捌所 眞



上総國山邊郡東金町

開盛堂

同國望陀郡不更津南片町

齊藤久七

同國市原郡姉ヶ崎村

開進舎

同國長柄郡茂原驛昌平町

傳徳舎

同國武射郡松尾

高林銀藏

下総國香取郡佐原南横町

好文堂

同國匝瑳郡八日市場本町

開盛堂支店

同國海上郡銚子本城田本町

開盛舎

同國印旛郡佐倉片側田町

立真舎支店

同國東葛飾郡松戸驛

根本勝之助

右賣捌所ノ外本縣内各新聞紙賣捌所於テモ發賣取次候間最寄ノ諸
彦同所ニテ購求アラシクナテ希望ス

民國二十九年四月廿一日

第 一 〇 〇 〇 號

國民政府

令 令 令 令

國民政府令 任命 蔣中正 為 行政院長

蔣中正 字 介石 浙江 奉化 人

曾任 國民革命軍 總司令 兼 陸軍 總司令

現任 國民政府 主席 兼 陸軍 總司令

此令

中華民國二十九年四月廿一日

國民政府 主席 蔣中正

行政院 院長 蔣中正

財政部 部長 蔣中正

教育 部 長 蔣中正

內務 部 長 蔣中正

國防 部 長 蔣中正

交通 部 長 蔣中正

農林 部 長 蔣中正

衛生 部 長 蔣中正

僑務 部 長 蔣中正

蒙藏 部 長 蔣中正

僑務 委員會 委員長 蔣中正

蒙藏 委員會 委員長 蔣中正

僑務 委員會 委員 蔣中正

蒙藏 委員會 委員 蔣中正

東 京 圖 書 館

| | |
|-------|-----|
| 函 五 四 | 門 新 |
|-------|-----|

| | |
|-----|-------|
| 架 二 | 部 一 一 |
|-----|-------|

| | |
|---|---|
| 號 | 類 |
|---|---|